

日本の
ひなた
宮崎県

統計でみる 宮崎県の農畜産業2024

令和7年3月
宮崎県農政水産部

目次

1. 本県農業の全体像

①自然・社会的条件	2
②全国における本県農業の位置づけ	3
③本県における農業の位置づけ	4
④農業産出額	5
⑤食料自給率	6

2. 担い手

①農家数等の推移	7
②農業法人と雇用者の推移	8
③多様な農業の担い手	9

3. 農地

①耕地面積、荒廃農地面積	10
②作付面積、農地集積	11
③基盤整備	12

4. 販売力の強化

①農畜産物の輸出	13
②6次産業化	14

5. 環境に配慮した取組

①グリーン成長プロジェクトの推進	15
------------------	----

6. 主な品目の生産

①米	16
②野菜	17
③果樹	18
④花き	19
⑤工芸作物	20
⑥肉用牛	21
⑦酪農	22
⑧豚	23
⑨ブロイラー	24
⑩採卵鶏	25

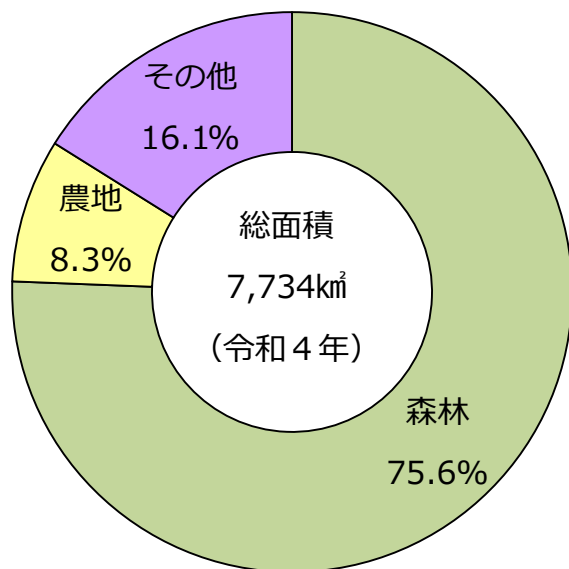
7. 地図でみる宮崎県の農畜産業

・ その他 関連する統計資料	27
----------------	----

1-①. 本県農業の全体像(自然・社会的条件)

- 総面積の7,734km²のうち、森林5,844km²と農地644km²が大部分を占めています。
- 平均気温が高く、温暖な気候に恵まれ、日照時間は全国的にもトップクラスです。
- 一方、農地のほとんどが火山性特殊土壌で覆われ、生産性が低く、台風、集中豪雨などの自然災害が発生しやすい環境でもあります。
- 大消費地から遠隔地にあるなど、不利な条件もありますが、東九州自動車道や九州中央自動車道、国際化に対応した空港・港湾など、陸・海・空の総合交通網の整備が着実に進んでいます。

◆ 県土の面積分布



◆ 気候

日照時間	2,122時間	(全国 6 位)
平均気温	17.7℃	(全国 3 位)
降水量	2,626mm	(全国 2 位)

◆ 都市との距離



航空

・東京	90分	・福岡	40分
・名古屋	75分	・ソウル	100分
・大阪	60分	・台北	120分



鉄道

・博多	5時間14分 (406km) ※B&S	3時間11分
・小倉	4時間27分 (340km)	
・大分	2時間59分 (207km)	
・鹿児島	2時間2分 (126km)	



高速バス

・福岡	4時間19分
・熊本	3時間23分
・長崎	5時間17分



海路 (フェリー)

・神戸	12時間20分 (495km)
-----	-----------------

1-②. 本県農業の全体像(全国における本県農業の位置づけ)

- 農家数等の農業における人口は全国でも低い水準にありますが、令和5年の農業産出額は全国6位の3,720億円となっています。
- 耕種部門では、きゅうり(1位)、スイートピー(1位)、マンゴー(2位)など全国上位の生産量を誇っており、畜産部門では、ブロイラー(2位)、豚(3位)、肉用牛(3位)と、いずれも全国トップクラスの飼養頭羽数となっています。

◆ 主要指標の全国シェア

	単位	年(年度)	宮崎県	全国	全国比	全国順位
総人口	千人	令2	1,070	126,146	0.8%	35
総農家数	戸	令2	30,940	1,746,990	1.8%	27
農業経営体数	経営体	令2	21,117	1,075,705	2.0%	23
個人経営体数	経営体	令2	20,314	1,027,782	2.0%	23
主業経営体数	経営体	令2	7,040	230,844	3.0%	12
農業就業者数	人	令2	40,472	1,600,906	2.5%	20
基幹的農業従事者数	人	令2	31,570	1,362,914	2.3%	20
耕地面積	ha	令6	62,500	4,272,000	1.5%	20
	うち田	令6	33,400	2,319,000	1.4%	29
	うち畑	令6	29,000	1,952,000	1.5%	15
農業産出額	億円	令5	3,720	94,987	3.9%	6

【用語解説】

- 総農家 : 経営耕地面積が10a以上または農産物販売金額が年間15万円以上の世帯
- 農業経営体 : 経営耕地面積が30a以上、または国が指定する基準以上の農業、または農作業受託の事業を行う者
- 個人経営体 : 個人(世帯)で事業を行う農業経営体。法人は含まない。
- 主業経営体 : 農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、一年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家
- 農業就業者 : 基幹的農業従事者数+常雇い+役員・構成員数(農業に従事した日数が年間150日以上)
- 基幹的農業従事者 : 15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農家に従事している者

◆ 主要品目の収穫量・飼養頭羽数及び全国シェア

	単位	年(年度)	宮崎県	全国	全国比	全国順位
米	千トン	令6	69.7	7,345.0	0.9%	34
ピーマン	千トン	令5	25.5	144.0	17.7%	2
さといも	千トン	令5	12.3	126.7	9.7%	2
きゅうり	千トン	令5	61.7	529.2	11.7%	1
スイートピー	千本	令4	30,813	56,046	55.0%	1
マンゴー	トン	令3	1,305	4,032	32.4%	2
茶(荒茶)	千トン	令5	2.9	68.0	4.3%	4
肉用牛	千頭	令6	258	2,672	9.7%	3
豚	千頭	令6	722	8,798	8.2%	3
ブロイラー	万羽	令6	2,816	14,486	19.4%	2

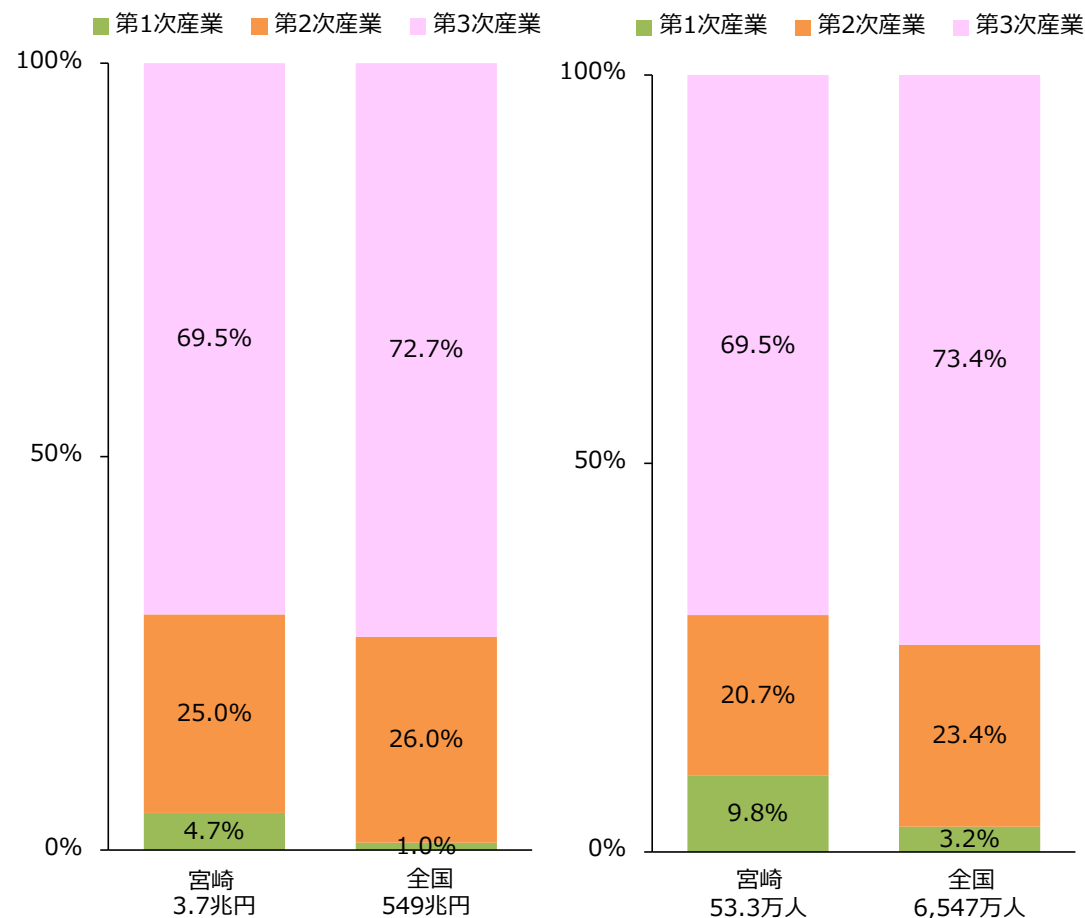
◆ 農業産出額の全国順位(R4)

1位	2位	3位	4位	5位	6位
北海道	鹿児島	茨城	千葉	熊本	宮崎
13,478	5,438	4,571	4,029	3,757	3,720

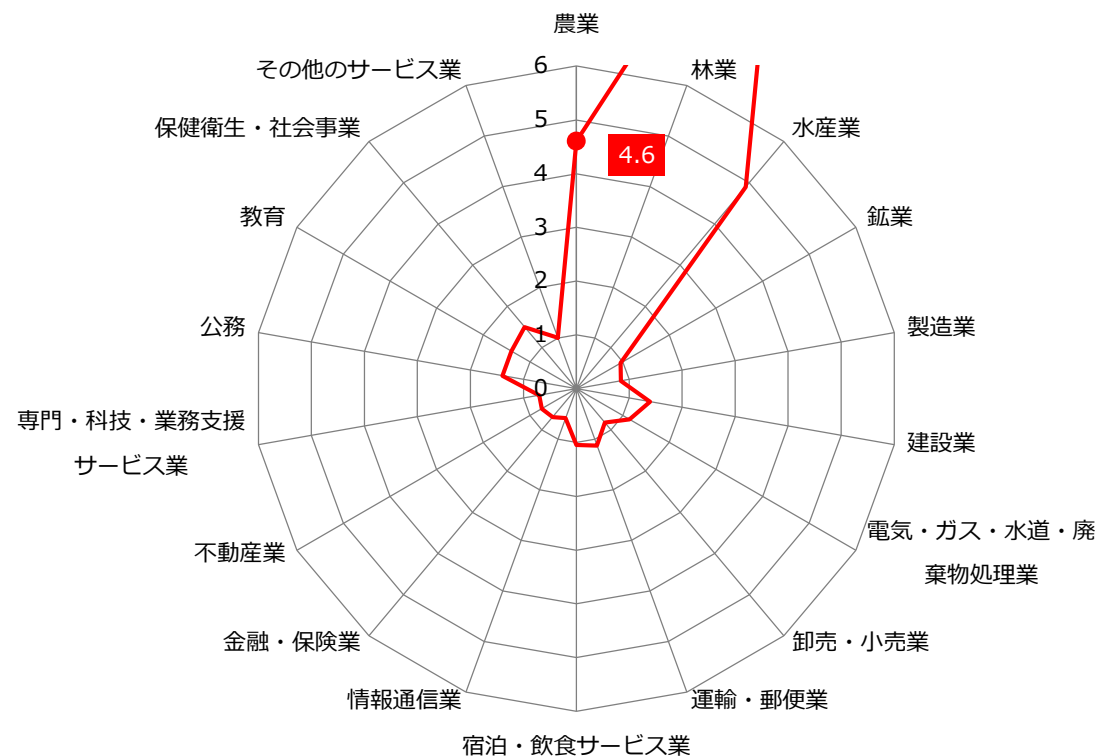
1-③. 本県農業の全体像(本県における農業の位置づけ)

- 県内総生産・就業人口ともに、第1次産業の占める割合が全国よりも高い比率となっています。
- 本県の農業の産業別特化係数は4.6（1に近いほど全国の産業構成に近い）と、他産業と比較して著しく高く、本県において農業が重要な役割を担っていることが分かります。

◆ 県内総生産(R3)、就業人口(R2)



◆ 産業別特化係数(R3)

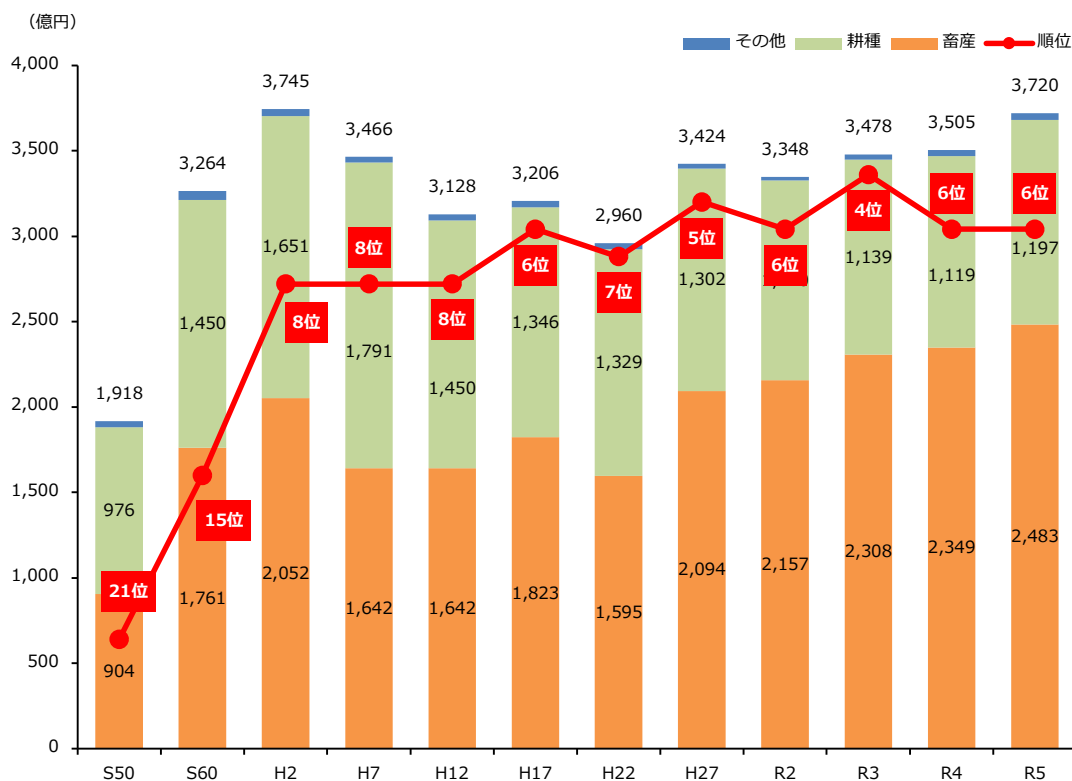


注：特化係数＝県内総生産の産業別構成比÷国内総生産の産業別構成比。
特化係数は、1に近いほど全国の産業構成割合に近いことを意味し、1を超えれば全国平均よりもその産業のウエイトが高いことを示しており、そのような産業を「特化した産業」という。

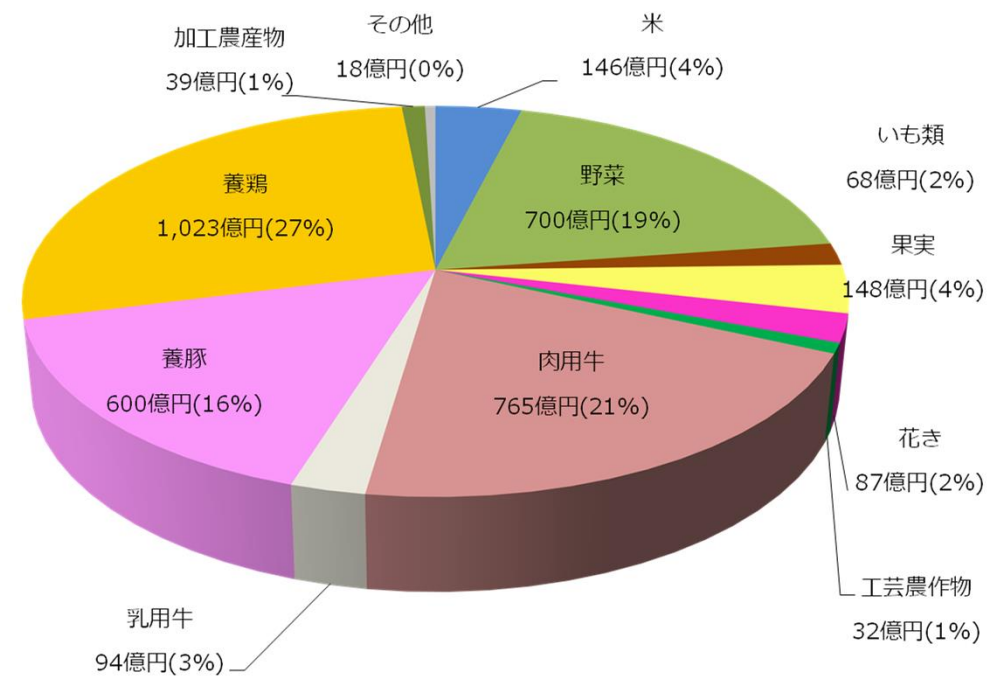
1-④. 本県農業の全体像(農業産出額)

- 本県の農業産出額は、平成前半期は下落傾向でしたが、口蹄疫からの復興に伴う畜産部門の伸びに支えられ平成24年度以降は年々増加傾向で、令和5年は3,720億円となりました。
- 令和5年農業産出額の内訳は畜産が67.0%、耕種32.2%となっており、作物別では、養鶏、肉用牛、野菜、養豚の順で高い割合を占めています。

◆ 農業産出額の年次推移(R5)



◆ 農業産出額の内訳(R5)



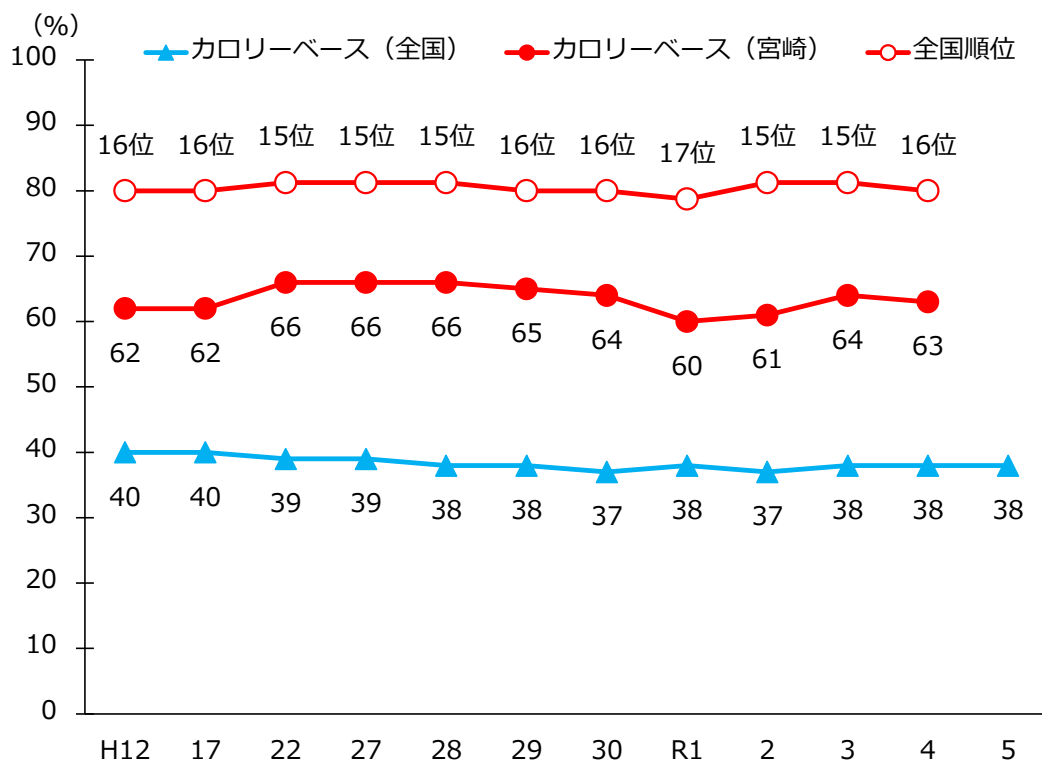
【用語解説】

- 農業産出額 : 農業の最終生産物の総生産額のこと、都道府県別の品目ごとの生産数量に農家庭先販売価格を乗じて求めたもの
- 生産農業所得統計 : 農業生産によって新たに生み出された付加価値のこと、農業産出額から物的経費（原価償却費を含む）を除き、生産に関わる補助金を加えたもの

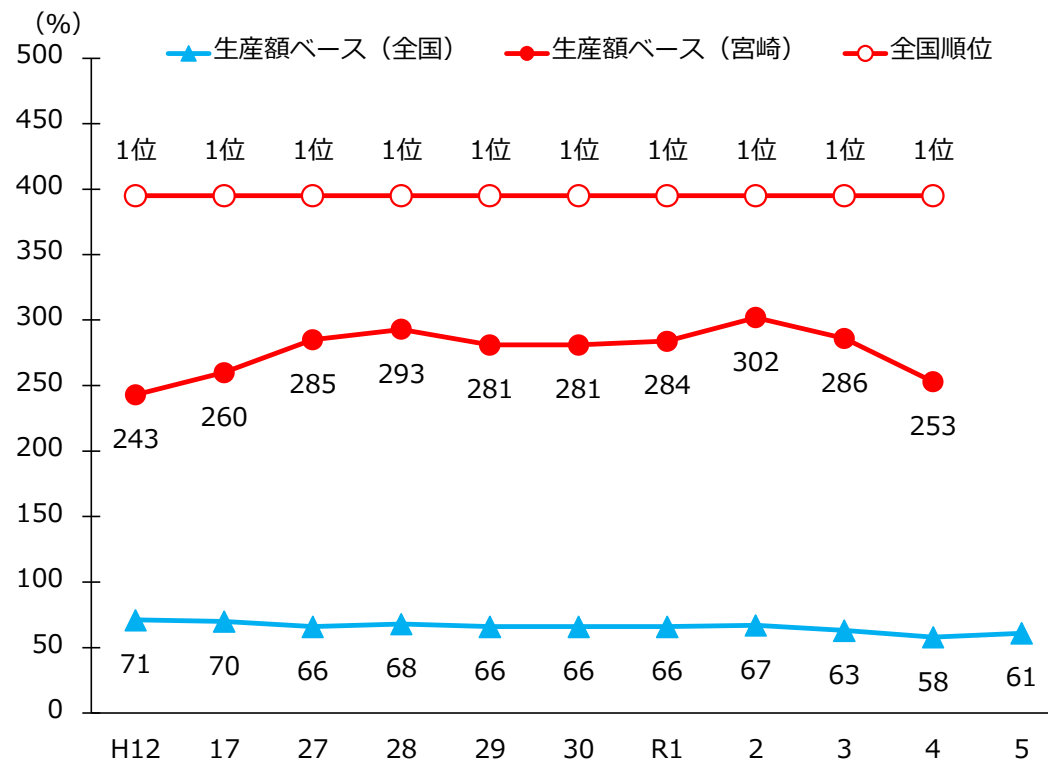
1-⑤. 本県農業の全体像(食料自給率)

- 本県の食料自給率は、カロリーベース63%（全国16位）、生産額ベース253%（全国1位）と、全国的にも高い水準の食料自給率を維持しています。（令和4年概算値）。
- また、飼料自給率を反映しない食料国産率では、カロリーベース132%（全国7位）、生産額ベース316%（全国1位）となっています（令和4年概算値）。

◆ カロリーベース食料自給率の推移



◆ 生産額ベース食料自給率の推移



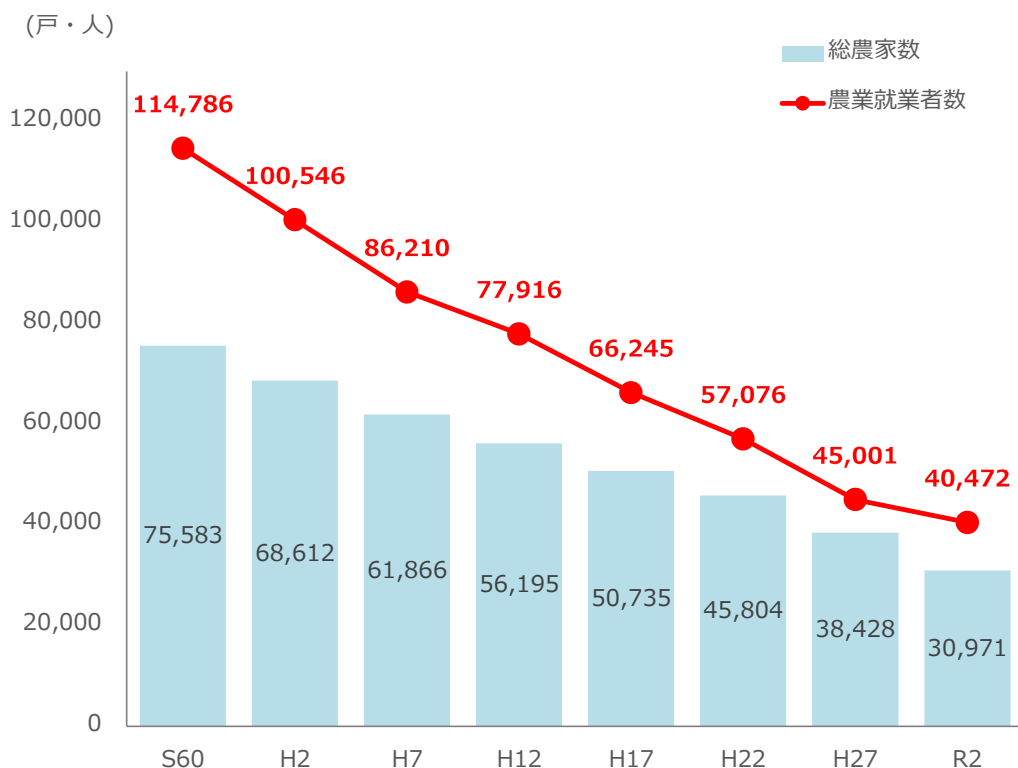
【用語解説】

- 食料自給率：日本国内における食料全体の供給に対する食料の国内生産の割合を表す指標
- 食料国産率：飼料の多くを海外からの輸入に依存している畜産業の実情を評価するために、食料自給率のうち輸入飼料による畜産物の生産分も国内生産に含めて計算したもの

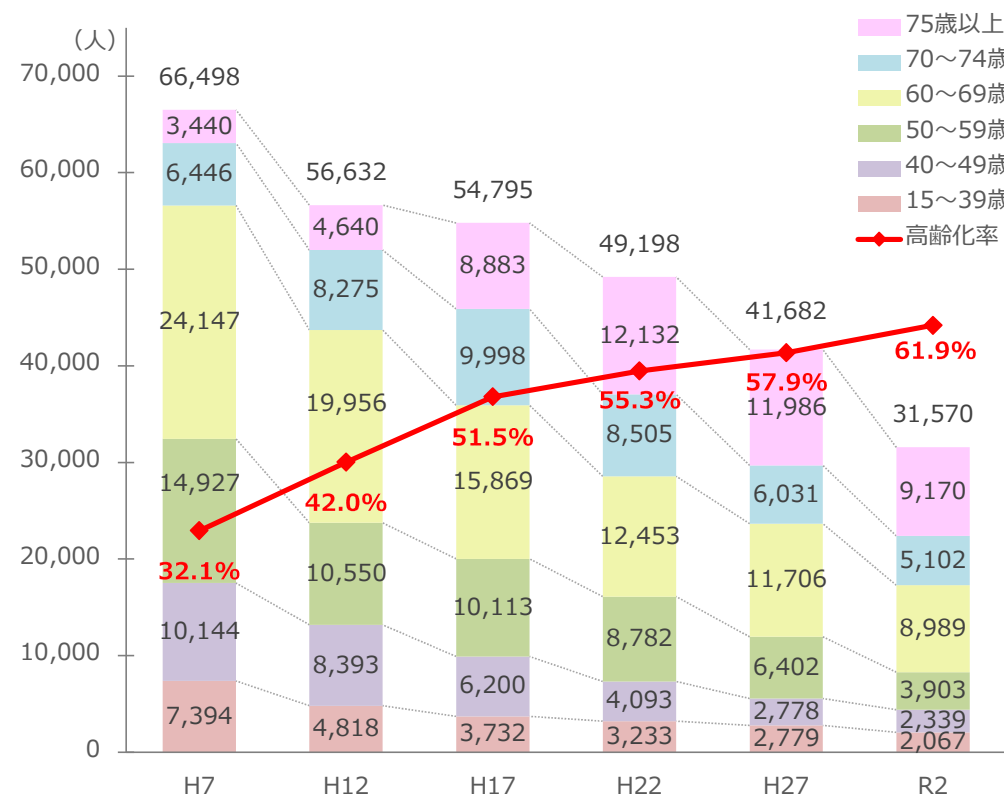
2-①. 担い手（農家数等の推移）

- 本県の農業に関わる人口は年々減少し、令和2年における総農家数は30,940戸、農業就業者数は40,472人になっています。
- 基幹的農業従事者数の6割以上は65歳以上であり、高齢化が進行しています。

◆ 総農家数と農業就業者数の推移



◆ 基幹的農業従事者数の推移



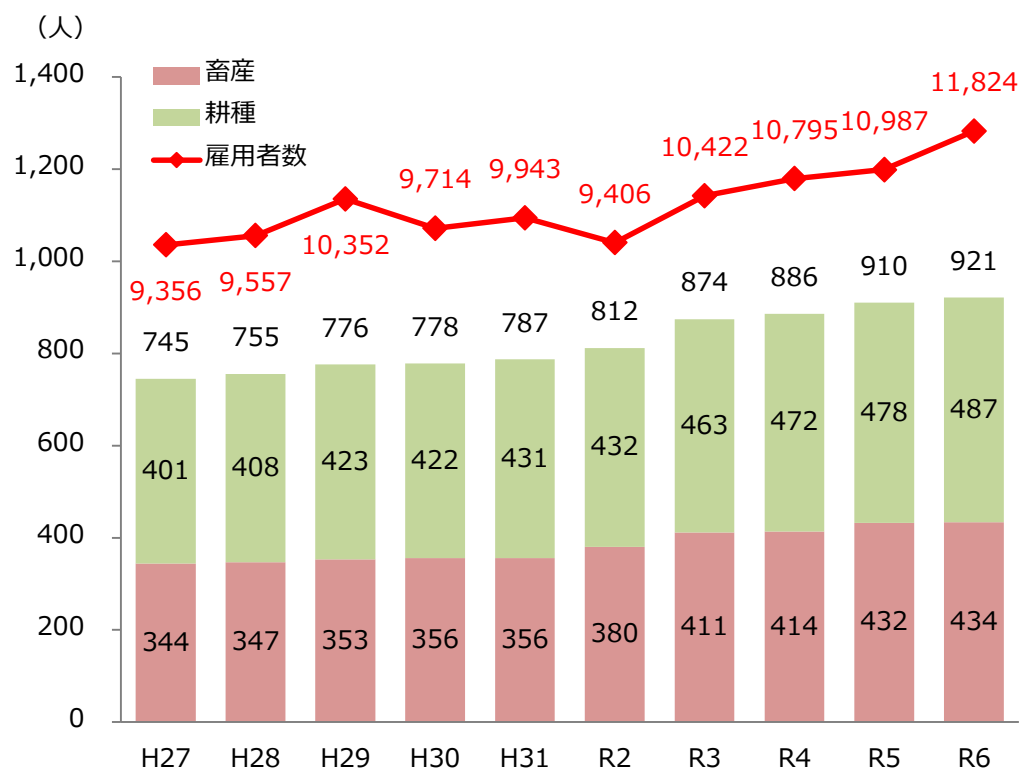
【用語解説】

- ・総農家 : 経営耕地面積が10a以上または農産物販売金額が年間15万円以上の世帯
- ・農業就業者 : 基幹的農業従事者数＋常雇い＋役員・構成員数（農業に従事した日数が年間150日以上）
ただし、H27までは農業就業人口を記載
- ・基幹的農業従事者 : 15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農家に従事している者
ただし、H27までは販売農家、R2からは個人経営体における基幹的農業従事者数を記載

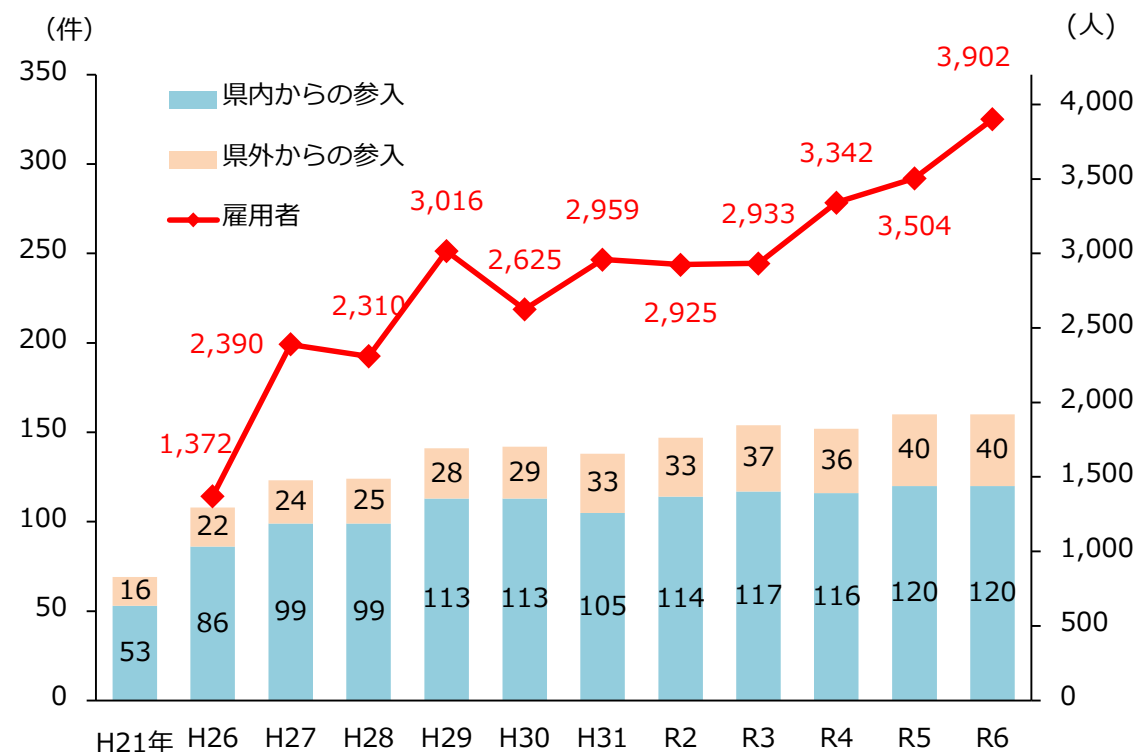
2-②. 担い手（農業法人と雇用者の推移）

- 令和6年の県内における農業法人数は、921法人（耕種487、畜産434）と年々増加しており、それに伴い雇用者も増加傾向にあります。
- 他産業からの参入法人数も増加傾向で、特に近年は県外からの参入が多くなっています。令和6年には参入法人の雇用者数が約4,000人となり、地域の新たな担い手や雇用の受け皿として期待されています。

◆ 農業法人数と雇用者の推移



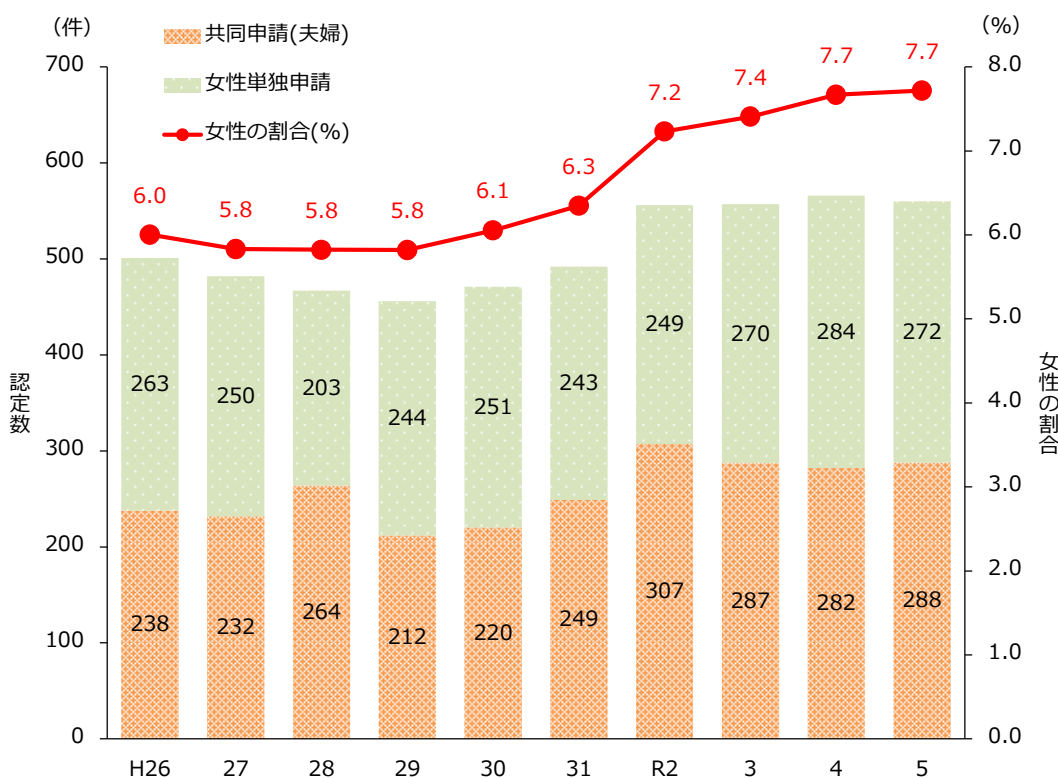
◆ 参入法人数の推移



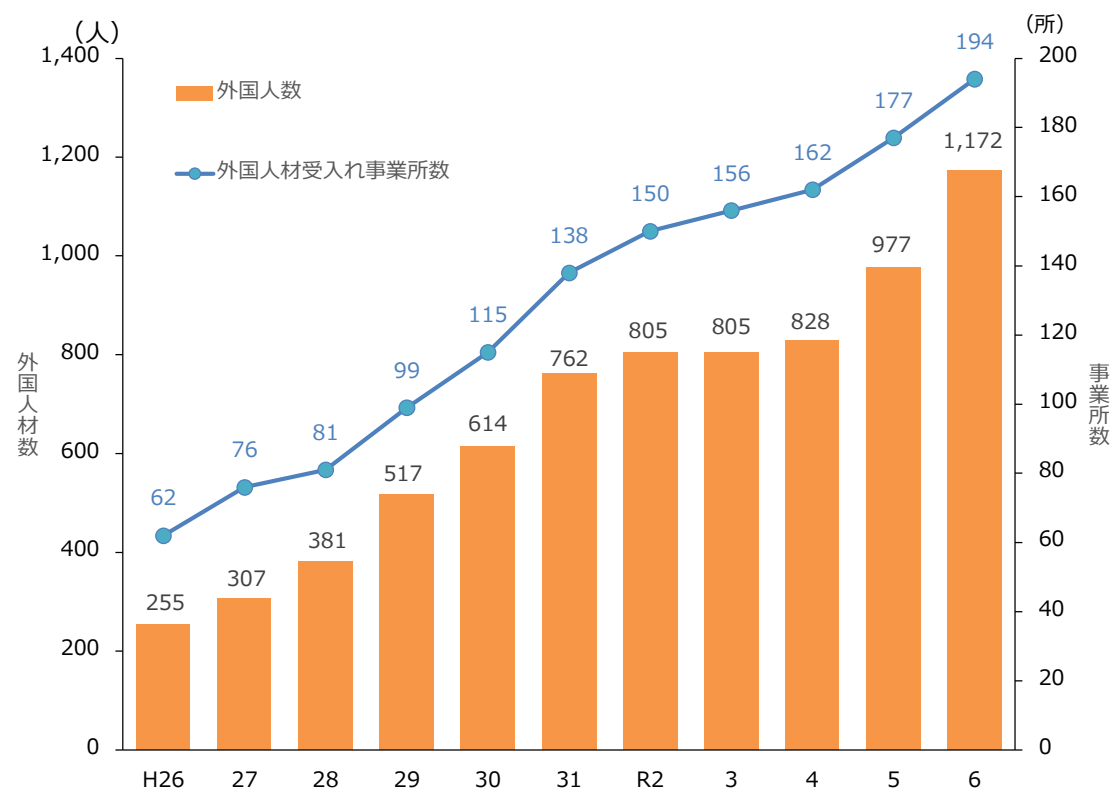
2-③. 担い手(多様な農業の担い手)

- 本県における、認定農業者のうち女性の占める割合は年々増加し、令和5年には7.7%となりました。農業経営改善計画の夫婦共同申請等により、農業経営に関わる女性が増加しています。
- 農業分野の外国人数は令和6年には1,100人を超え、平成26年と比べ4倍以上に増加しています。特に、平成31年から始まった特定技能制度による人材数が増加傾向にあります。

◆ 女性認定農業者の割合



◆ 農業における外国人材の推移



【用語解説】

- 認定農業者 : 農業経営基盤強化促進法に基づき、経営を改善するための計画(農業経営改善計画)を作成し市町村から認定された者
- 特定技能 : 平成31年に開始した日本の在留資格で、人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人材を受け入れる制度
- 外国人技能実習生 : 我が国で開発され培われた技能、技術等の開発途上国等への移転を図り、その開発途上国等の経済発展を担う目的で実習を行う外国人

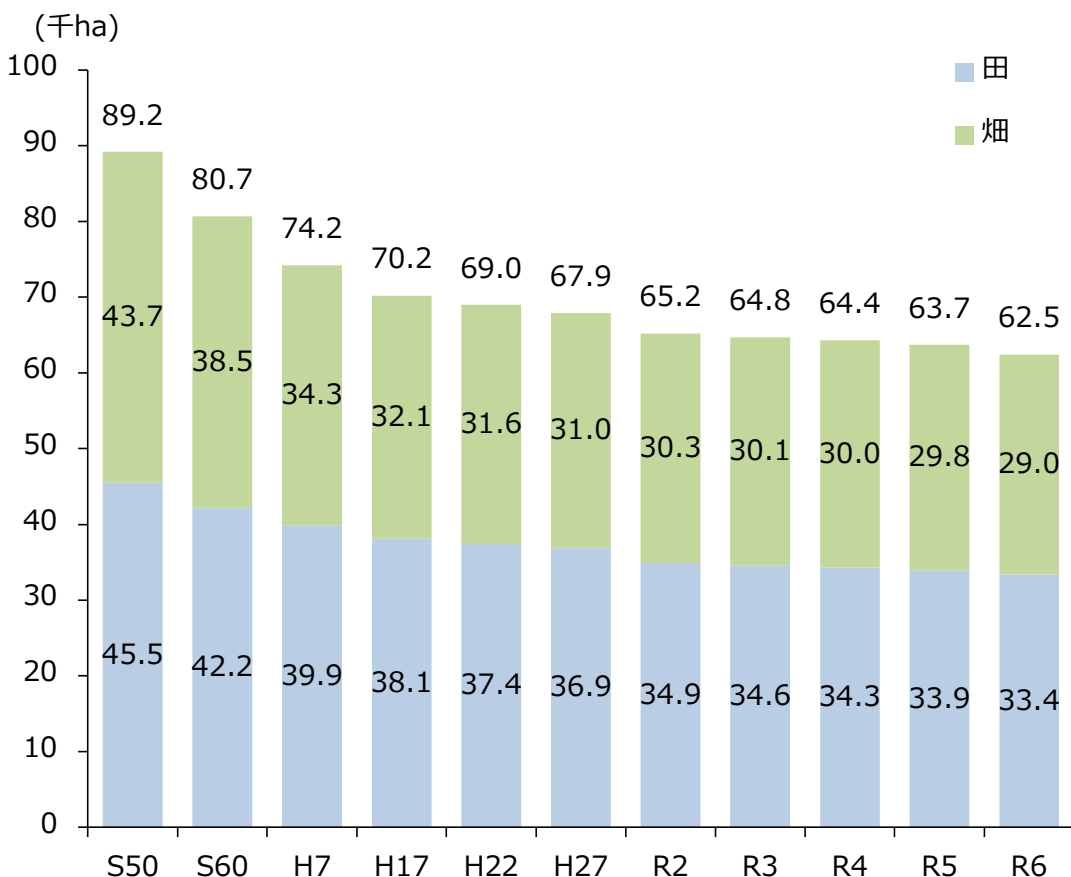
資料：宮崎県「農業法人実態調査」

資料：宮崎労働局「外国人雇用状況」の届出状況のまとめ

3-①. 農地（耕地面積、荒廃農地面積）

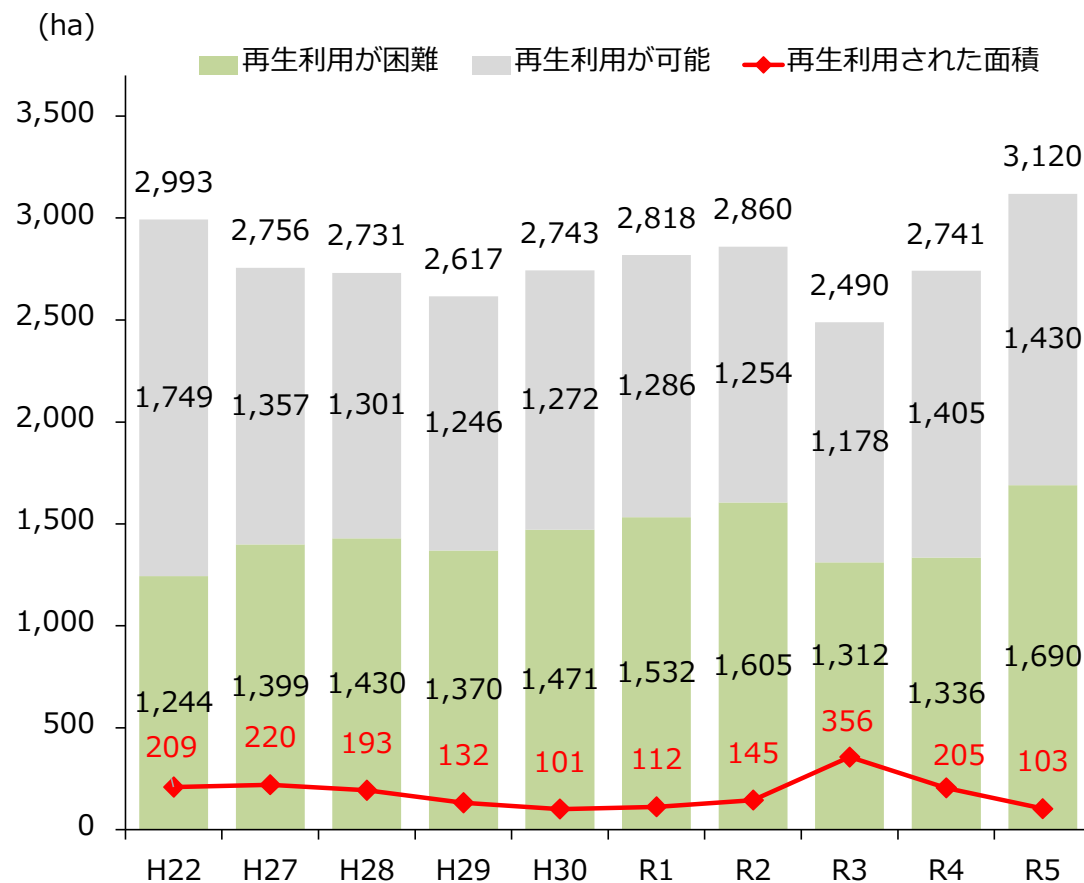
- 本県における令和6年7月15日現在の耕地面積は62,500haで、前年に比べ1,200ha減少しました。このうち、田は33,400haで、畑は29,000haとなっています。
- 一方で、荒廃農地の面積は徐々に増加しつつあり、令和5年においては3,120haとなりました。そのうち半分以上は「再生利用が困難」とされる荒廃農地となっています。

◆ 耕地面積の推移



資料：農林水産省「作物統計」

◆ 荒廃農地面積の推移



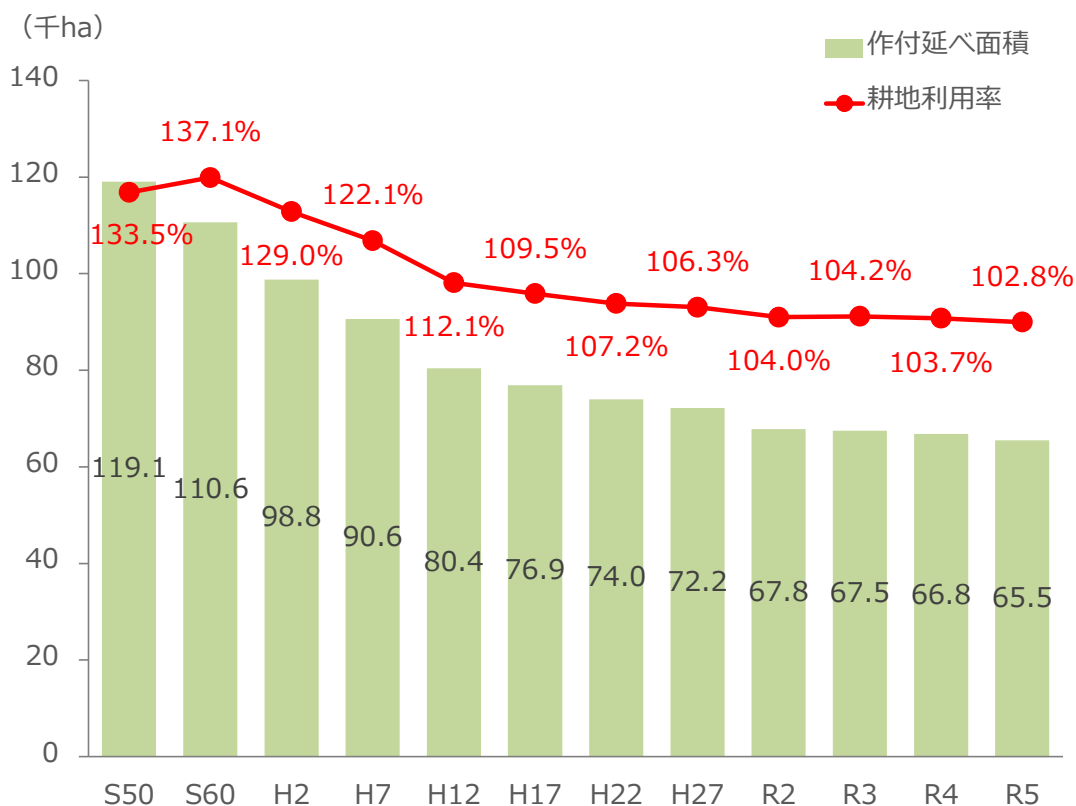
資料：農林水産省「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」

3-②. 農地（作付面積、農地集積）

- ・ 作付け（栽培）延べ面積は減少傾向にあるものの、耕地面積を「100」とした作付け延べ面積の割合である耕地利用率は横ばいであり、全国的にも高い利用率となっています。
- ・ 担い手※への農地集積率は、平成26年度から始まった農地中間管理事業の活用などにより徐々に増加しており、令和5年は57.6%となっています。

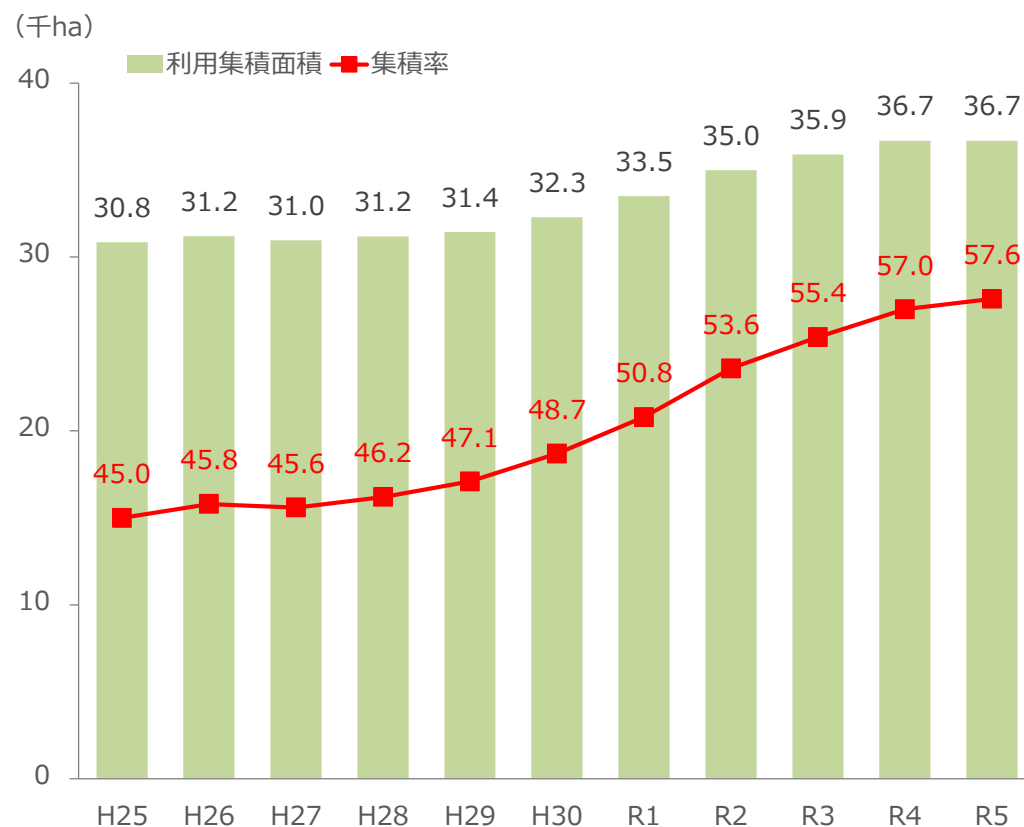
※ 認定農業者、認定新規就農者、基本構想水準到達者、集落営農

◆ 作付延べ面積と耕地利用率の推移



資料：農林水産省「作物統計」

◆ 担い手への農地集積率

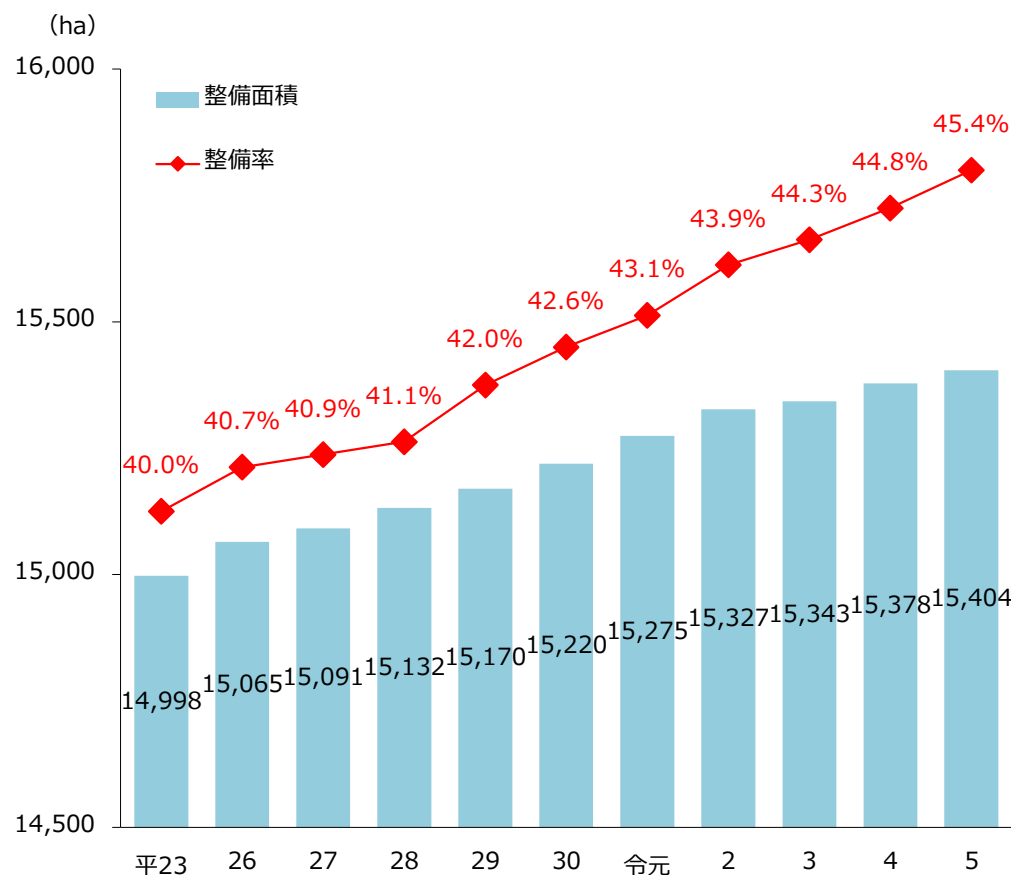


資料：宮崎県調べ

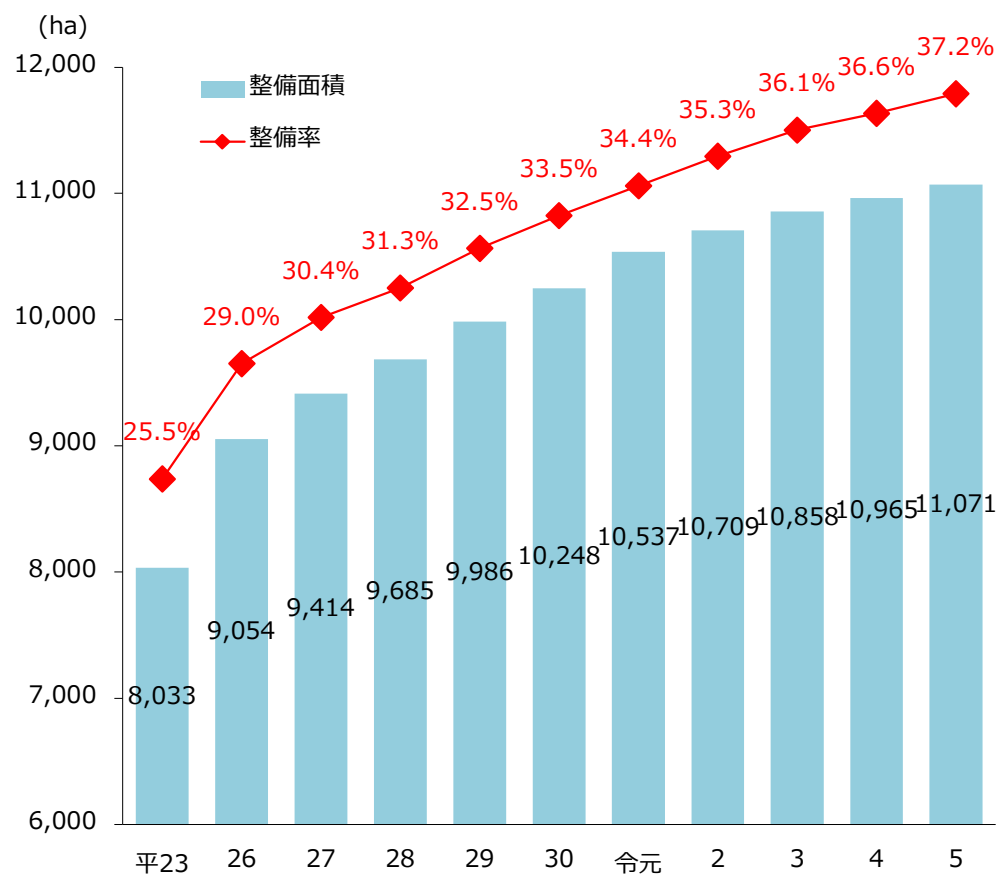
3-③. 農地(基盤整備)

- 県では「稼げる農業」の実現に向け、スマート農業等による生産性向上、農地の大区画化や汎用化、畑かん施設整備等の基盤整備を進めています。
- 本県における令和5年度の水田ほ場、畑かん施設の整備面積はそれぞれ15,404ha、11,071haと年々増加傾向にあります。

◆ 水田ほ場整備面積の推移



◆ 畑かん施設整備面積の推移



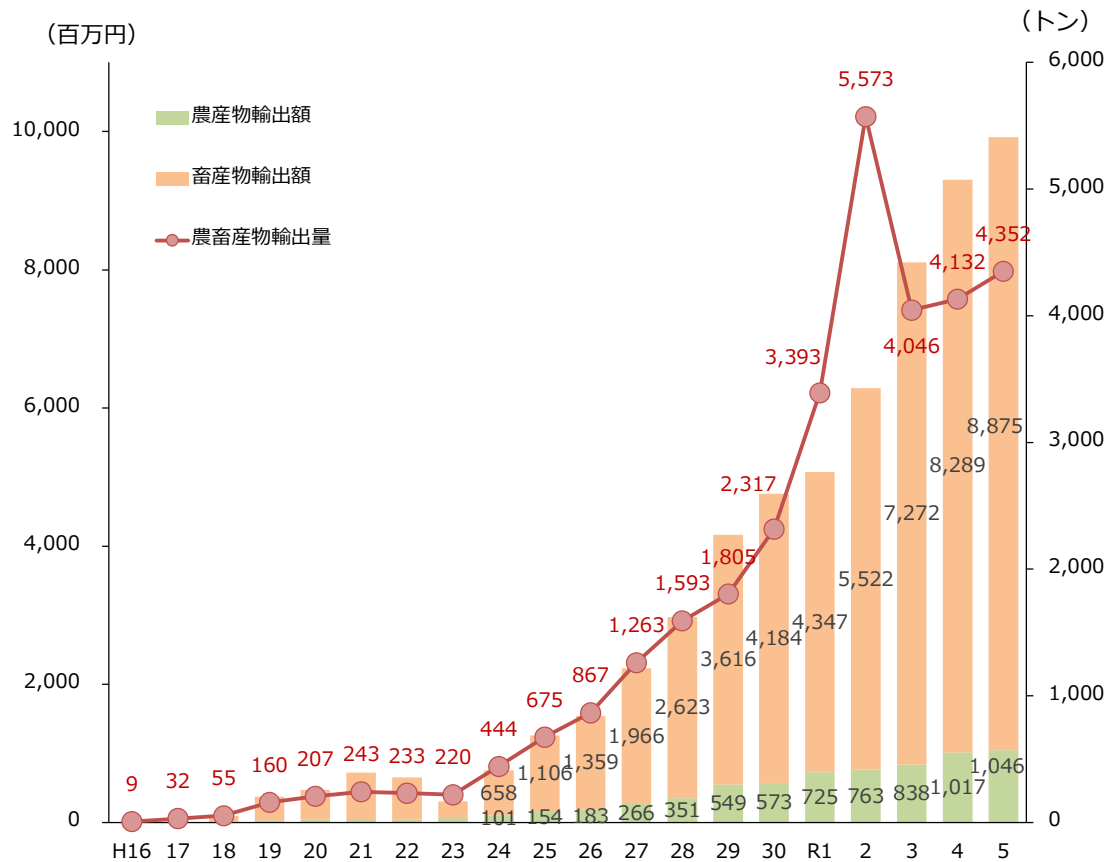
【用語解説】

・畑かん：畑地かんがいの略で、ダムや貯水池及びパイプライン等の人工的に築造された施設により、畑の農産物が水を必要とするときに供給するシステム

4-①. 販売力の強化（農畜産物の輸出）

- 人口減少等に伴う国内マーケットの縮小が見込まれる中、県では「みやざきグローバルプラン（第2期）」に基づき、今後販路として期待される国外マーケット（主にアジア）の消費ニーズや規制等に対応した産地育成や取引の拡大を支援しています。
- 令和5年度の農畜産物輸出額は農産物が10億4,600万円、畜産物が88億7,500万円となり、輸出額の大部分を牛肉が占めています。

◆ 本県農畜産物の輸出実績推移



◆ 品目別(R5)

	農産物					畜産物				計
		かんしょ	茶	花き	その他		牛肉	鶏卵	その他	
数量(ト、千本)	1,681	1,191	260	1,487	230	2,671	1,248	964	459	4,352
金額(百万円)	1,046	304	451	95	195	8,875	8,427	301	147	9,921

注：表示単位未満を四捨五入しているため合計値が一致しない。農産物の合計は、花きを除く。

◆ 国別・地域別(R5、農畜水産物)

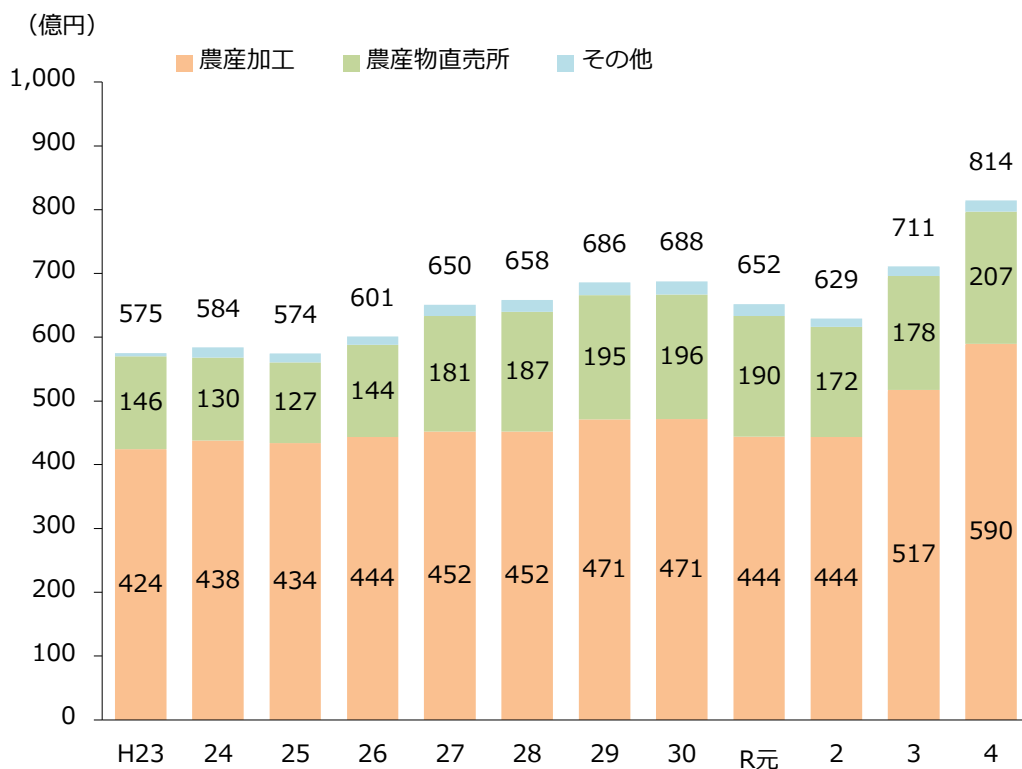
	アジア					アジア以外				計
		香港	シンガポール	台湾	その他		アメリカ	EU	その他	
数量(トン)	4,535	1,994	310	675	1,556	1,171	478	422	271	5,706
金額(百万円)	6,826	2,491	1,150	2,816	369	4,638	2,862	945	831	11,463

注：表示単位未満を四捨五入しているため合計値が一致しない。数量の合計は、花きを除く。

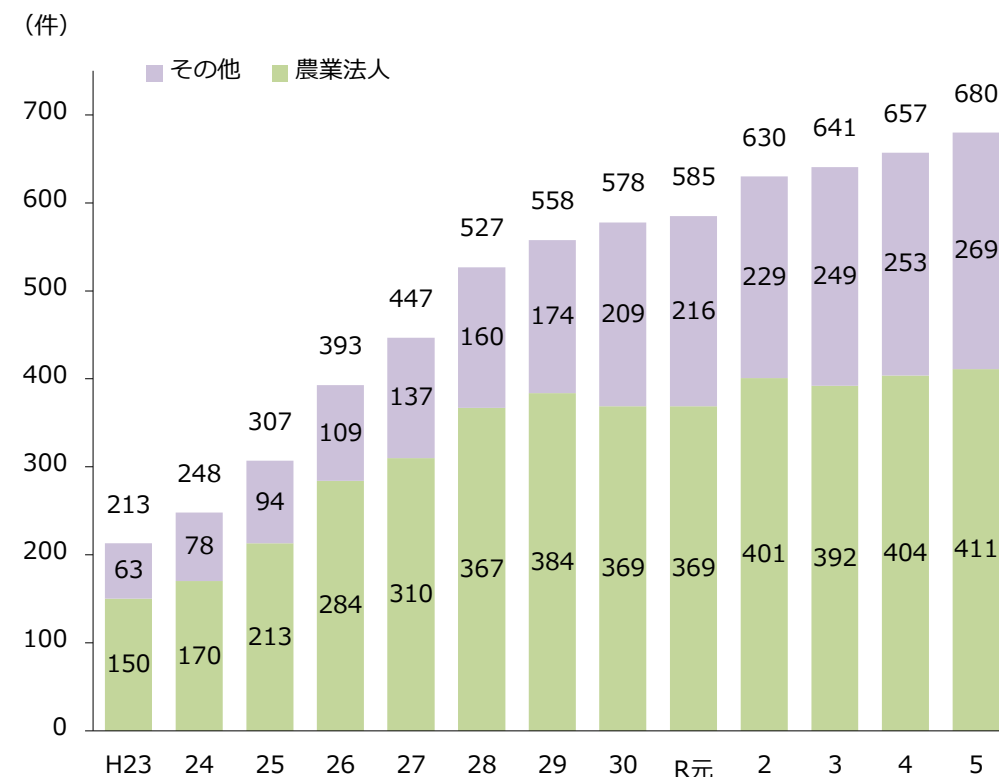
4-②. 販売力の強化(6次産業化)

- 農産加工や農産物直売所、観光農園、農家レストラン等の農畜産業の6次産業化の取組による年間販売額は年々増加傾向で、令和4年度は過去最高の814億円となり、特にその7割を農産加工が占め、590億円の販売額となっています。
- また、6次産業化・農商工連携の事例数も同様に増加傾向にあり、令和5年度は過去最高の680件となり、そのうち加工や直売に取り組む農業法人数が411件とその6割を占めています。

◆ 農畜産業の6次産業化による年間販売額



◆ 6次産業化・農商工連携の事例数



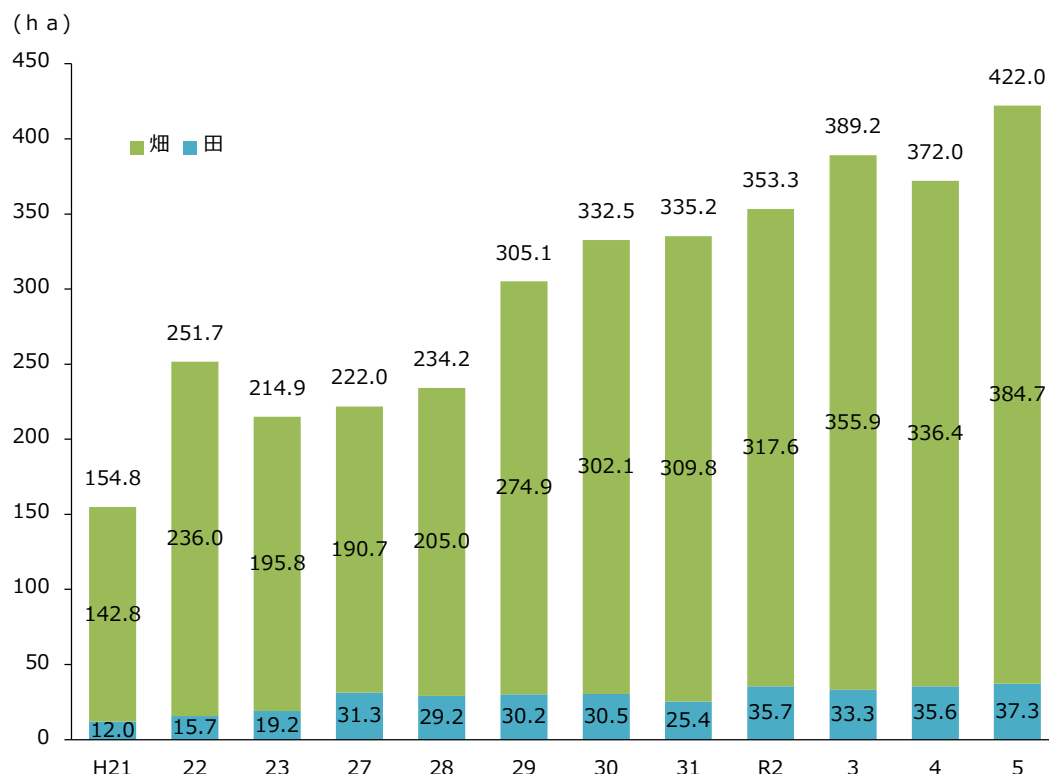
注：調査対象は農産加工、農産物直売所、観光農園、農家民宿、農家レストランの年間総販売(売上)額

注：6次産業化・農商工連携の事例数は、総合化事業計画認定件数、農商工等連携事業計画認定件数、農商工連携応援ファンド採択件数、農業法人実態調査における加工・直売に取り組む法人数の合計

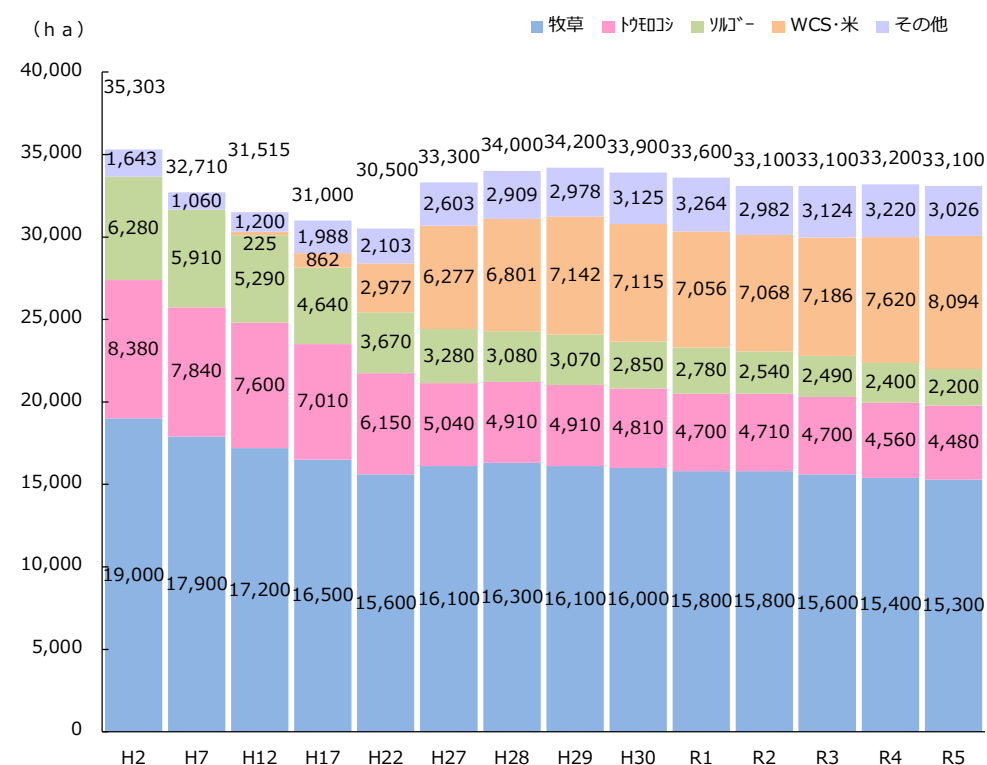
5-①. 環境に配慮した取組（グリーン成長プロジェクトの推進）

- 有機JASの認証面積は茶を中心に年々増加傾向にあり、令和5年の田と畑の合計面積は、過去最高の422haとなっています。
- 県では、国のみどりの食料システム戦略や第八次宮崎県農業・農村振興長期計画に基づき、持続可能な食料システムの構築に向け有機農業を推進しています。
- 飼料作物の作付け面積は、輸入粗飼料価格の高止まりもあり、水田を活用した飼料用米や飼料用稲（WCS）の面積は増加しているが、畜産農家戸数の減少や高齢化の影響により全体の作付け面積は33,000ha台で推移しています。

◆ 有機JAS認証面積の推移



◆ 飼料作物の作付け面積の推移

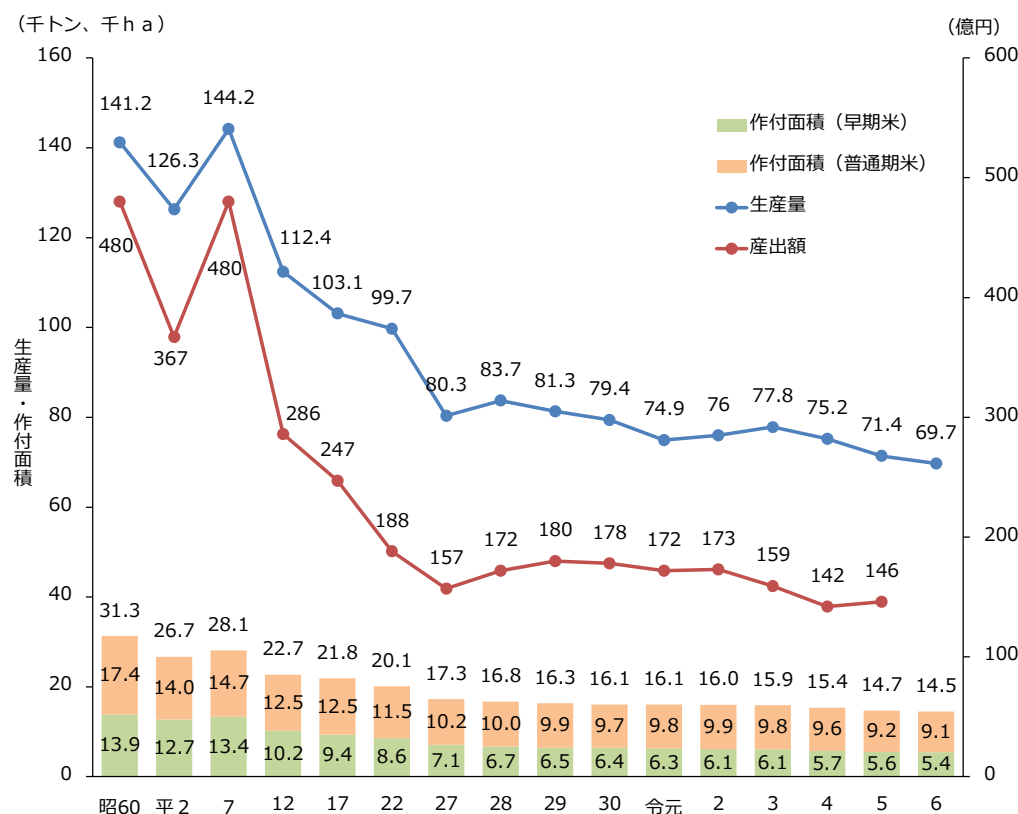


資料：農林水産省「有機食品等の認定事業者、格付実績、ほ場面積」「作物統計」

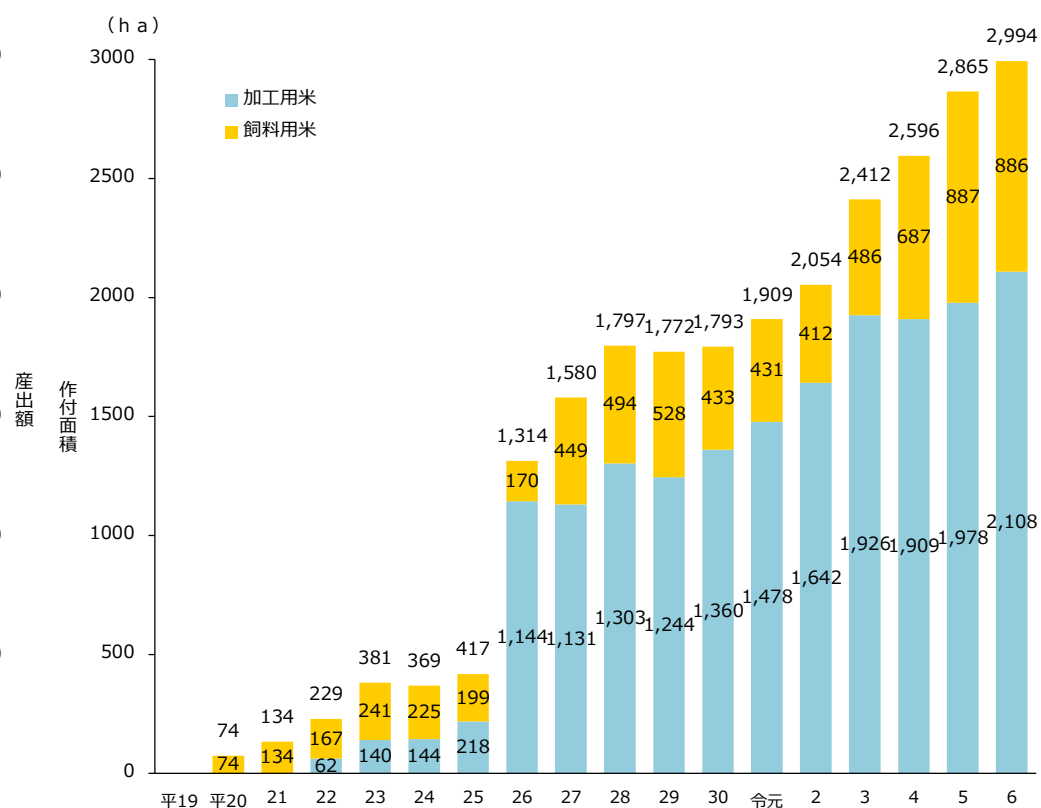
6-①. 主な品目の生産(米)

- 本県水稲は早期と普通期に大別され、「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心に生産しています。
- 水稲の作付面積、生産量は年々減少しており、令和6年の作付面積は14,500ha、生産量は69,700トンになり、令和5年の産出額は146億円でした。
- 一方で、畜産業や酒造業との連携強化による飼料用米や焼酎原料加工用米の生産拡大を進め、飼料用米は前年並みの作付けでしたが、加工用米は前年に比べて面積が増加し、令和6年産は加工用米が2,108ha、飼料用米が886haとなりました。

◆ 水稲の作付け面積、生産量、産出額の推移



◆ 加工用米・飼料用米の作付け面積の推移



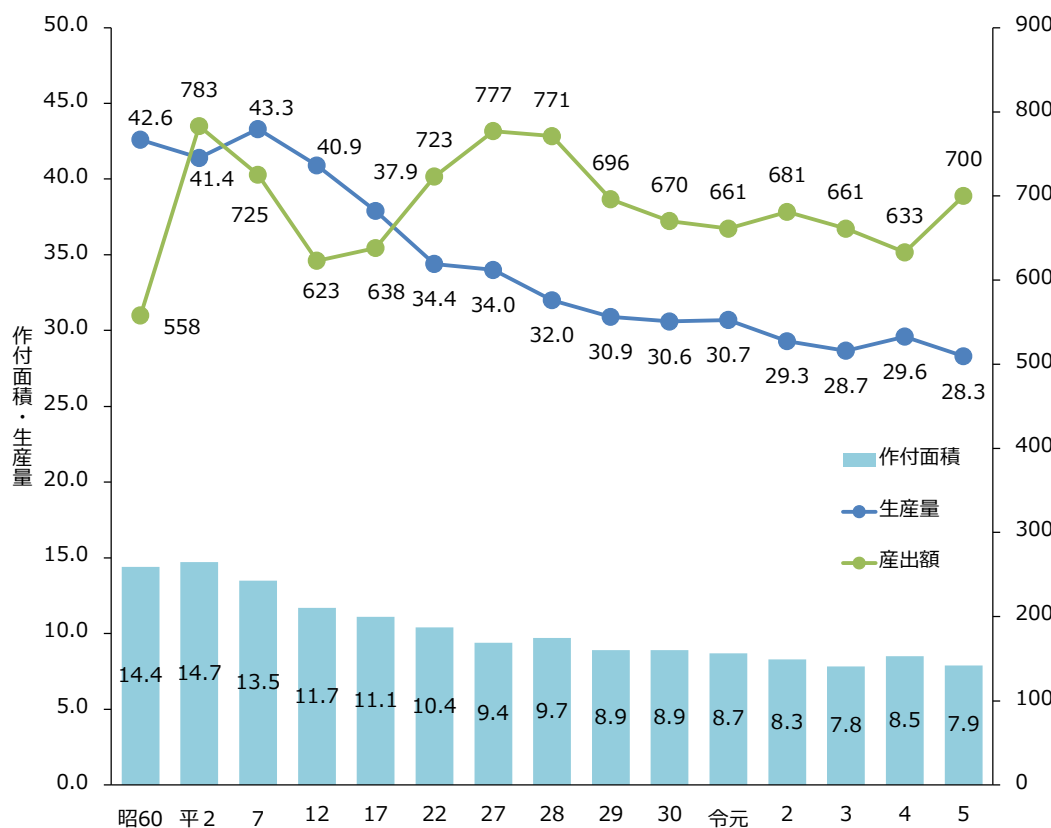
6-②. 主な品目の生産(野菜)

- 本県の野菜は、きゅうりやピーマン、トマト等の果菜類の周年供給体制が確立され、温暖な気候や標高差を活用した、さといも、かんしょ、ごぼう等の根菜類や、ほうれんそう等の葉菜類などの産地が形成され、全国有数の野菜産地を形成しています。
- 令和5年の野菜全体の産出額は700億円です。
- 担い手の減少や輸入野菜の影響等により、作付面積は減少傾向にあります。



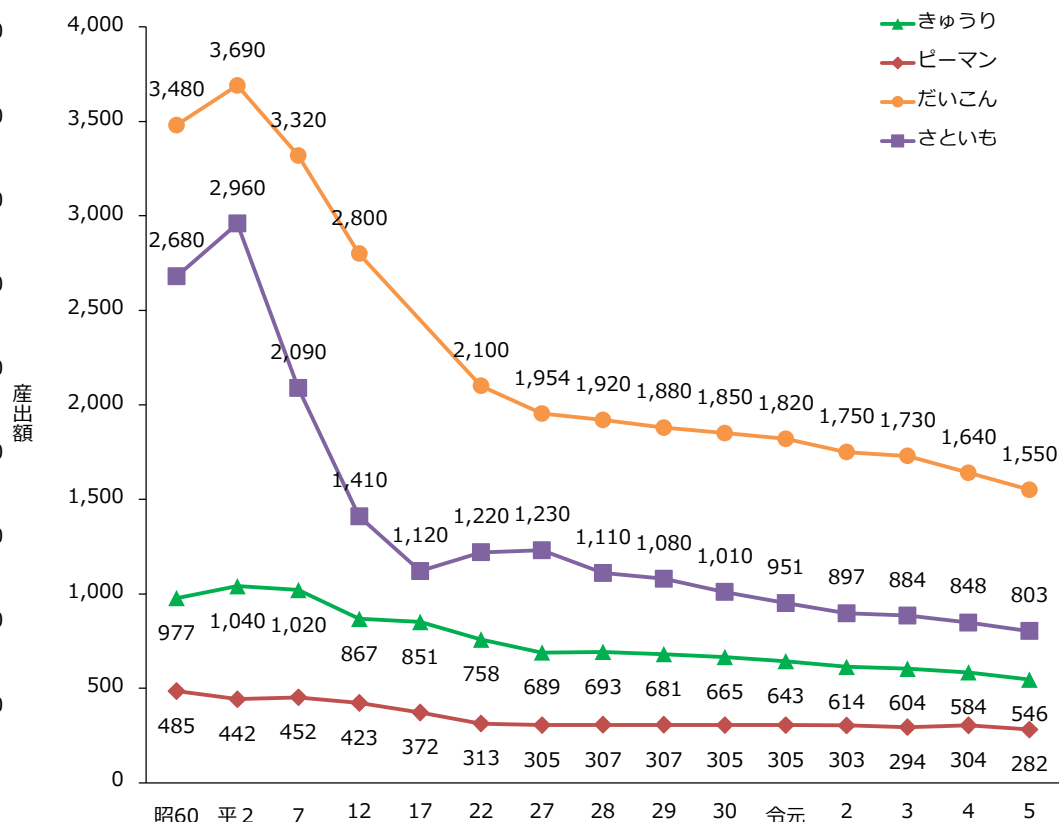
◆ 野菜の生産量、作付面積、産出額の推移

(万トン、千ha)



◆ 主要品目の作付面積の推移

(ha)



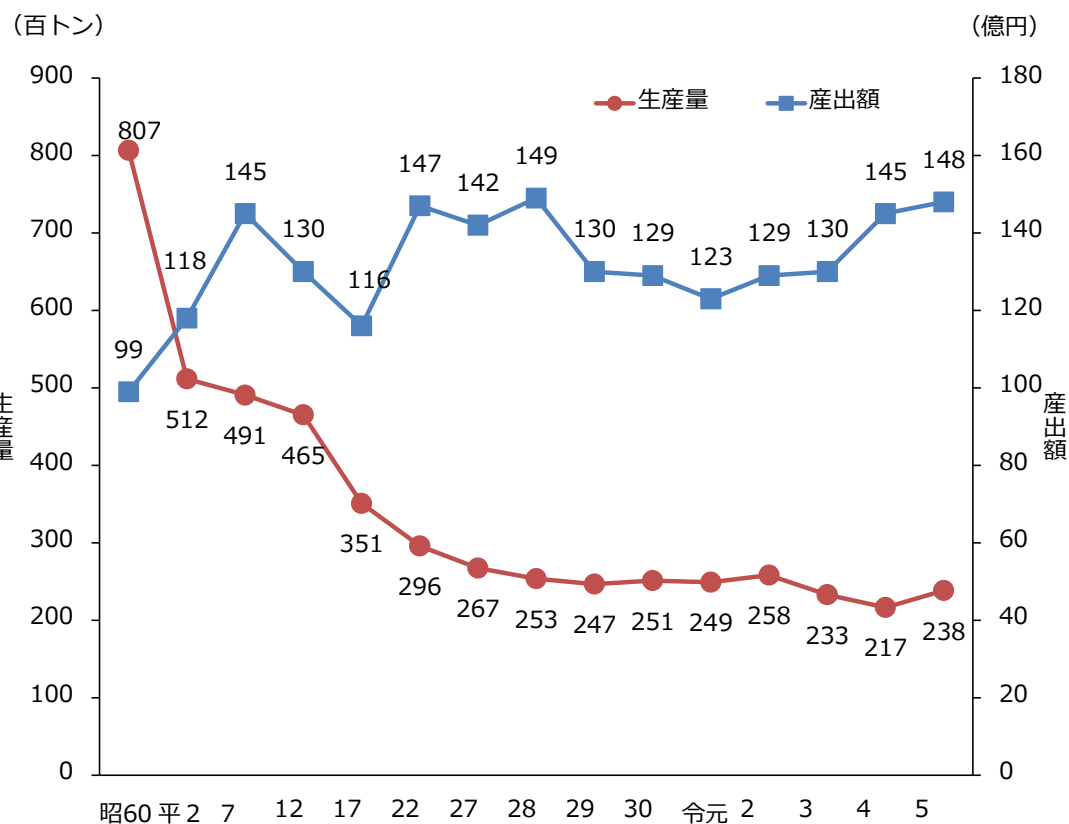
資料：農林水産省「作物統計調査」「生産農業所得統計」

6-③. 主な品目の生産(果樹)

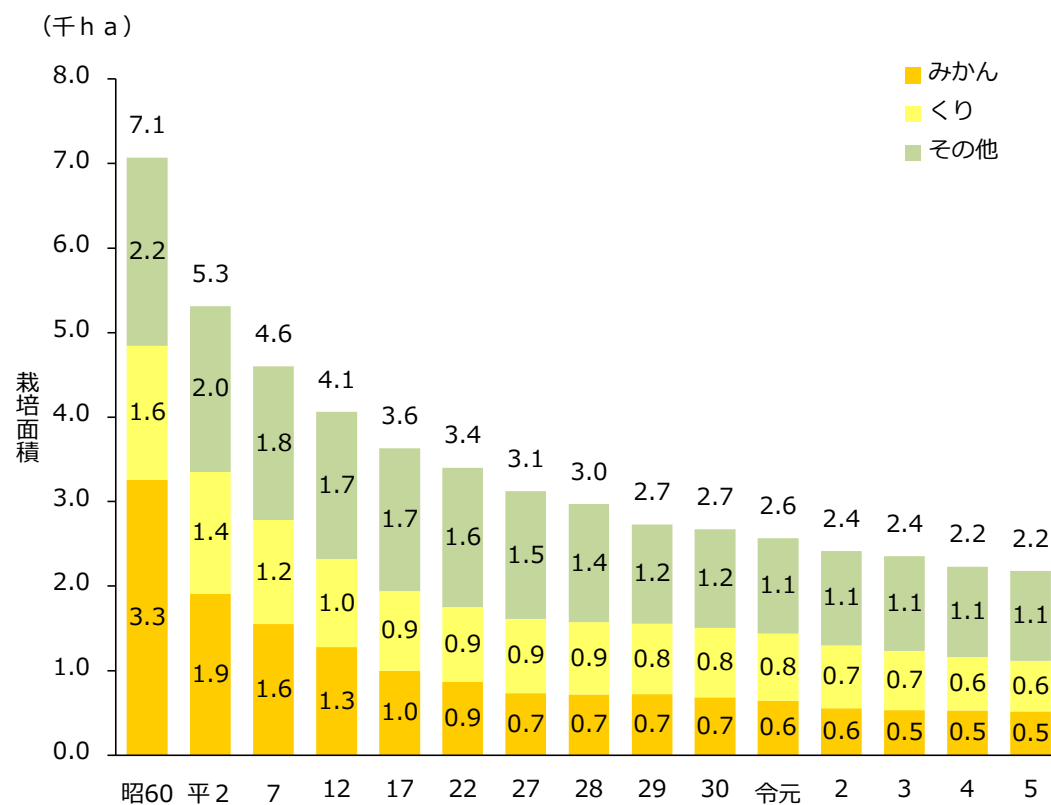
- 本県の果樹は、温暖な気候条件を生かし、マンゴーやきんかん、日向夏などの品目が県内全地域で栽培されており、完熟マンゴー「太陽のタマゴ」や完熟きんかん「たまたま」は本県の果樹ブランドの柱となっています。
- 生産量・栽培面積が減少傾向の中、付加価値の高い商品開発により産出額は横ばい傾向です。
- 近年では、本県原産の香酸かんきつ「へべす」栽培を平成30年春から県域に拡大したほか、次世代の果樹ブランドとして、「ライチ」の生産が増加傾向にあります。



◆ 果樹の生産量、産出額の推移



◆ 果樹の栽培面積の推移



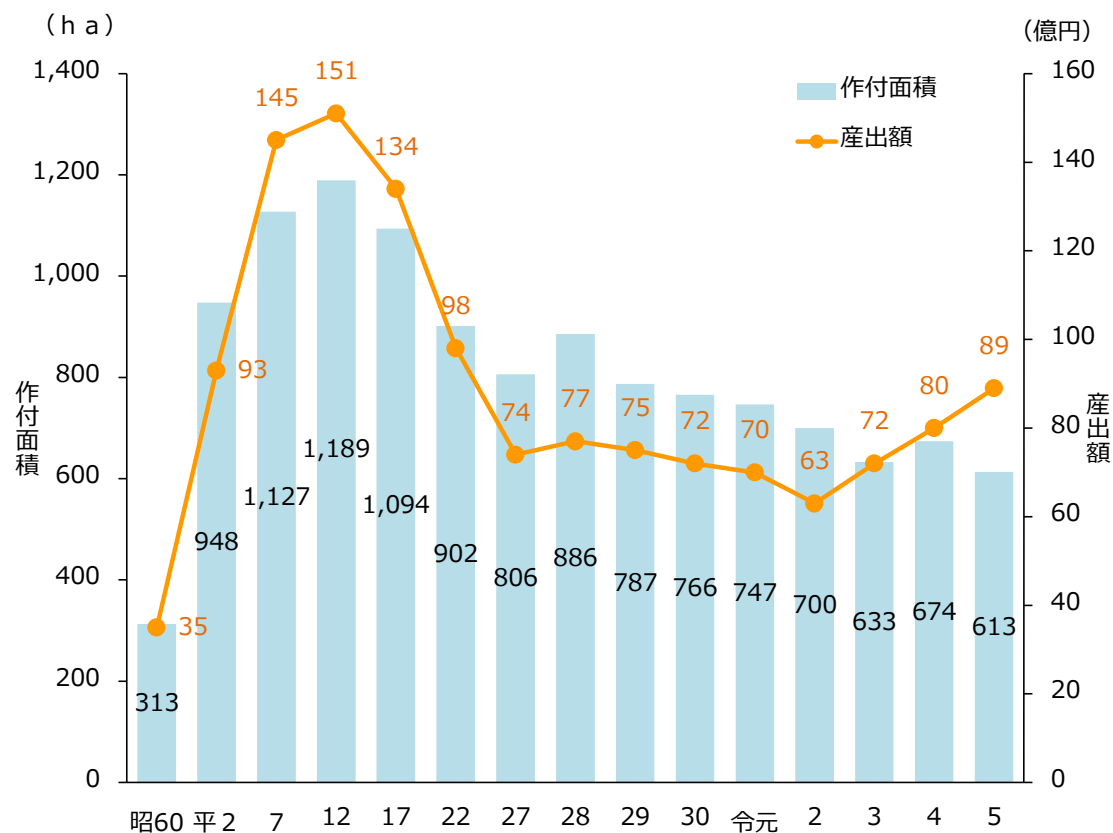
資料：農林水産省「作物統計調査」「生産農業所得統計」(ほか)

6-④. 主な品目の生産(花き)

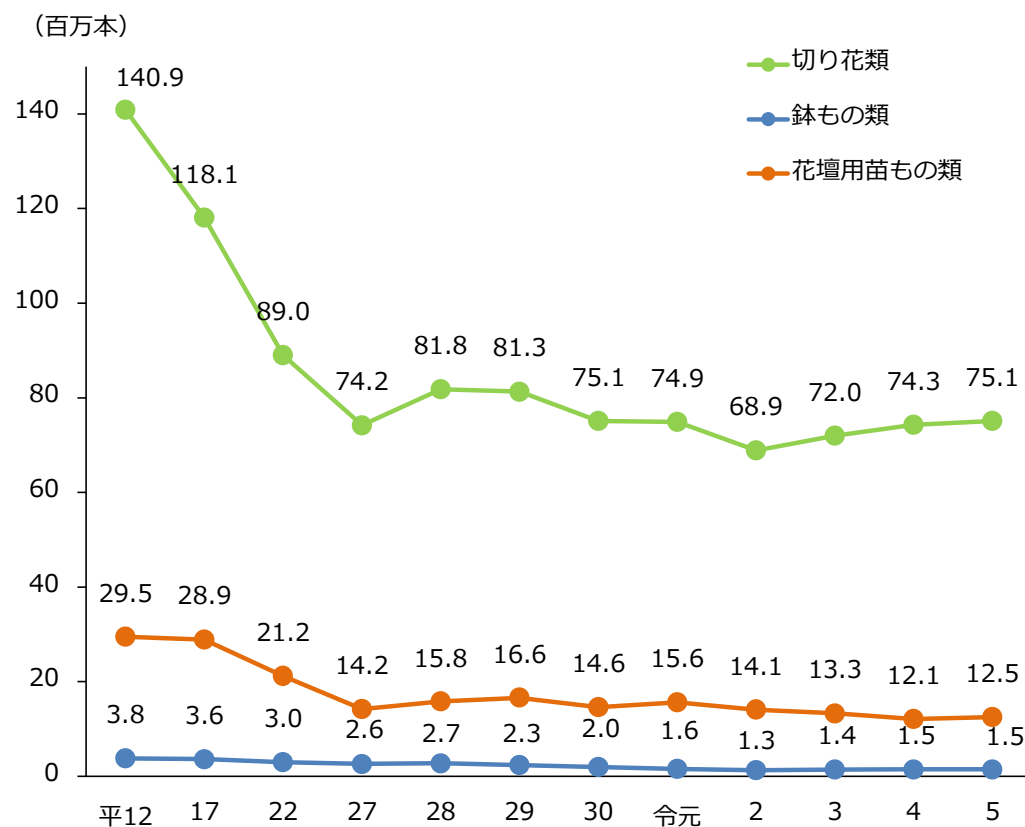
- 本県の花きは、冬期温暖で多日照な気候や中山間地域の昼夜温度差を生かした栽培が行われ、特にスイートピーやラナンキュラス、コチョウラン(鉢物)の全国有数の産地になっています。
- 作付面積が減少する一方、近年は需要が回復しつつあり、令和5年の産出額は89億円です。
- ベビーハンズなどの新規品目の導入・定着とともに、スイートピーの輸出を促進しています。



◆ 花きの作付け面積、産出額の推移



◆ 出荷量の推移

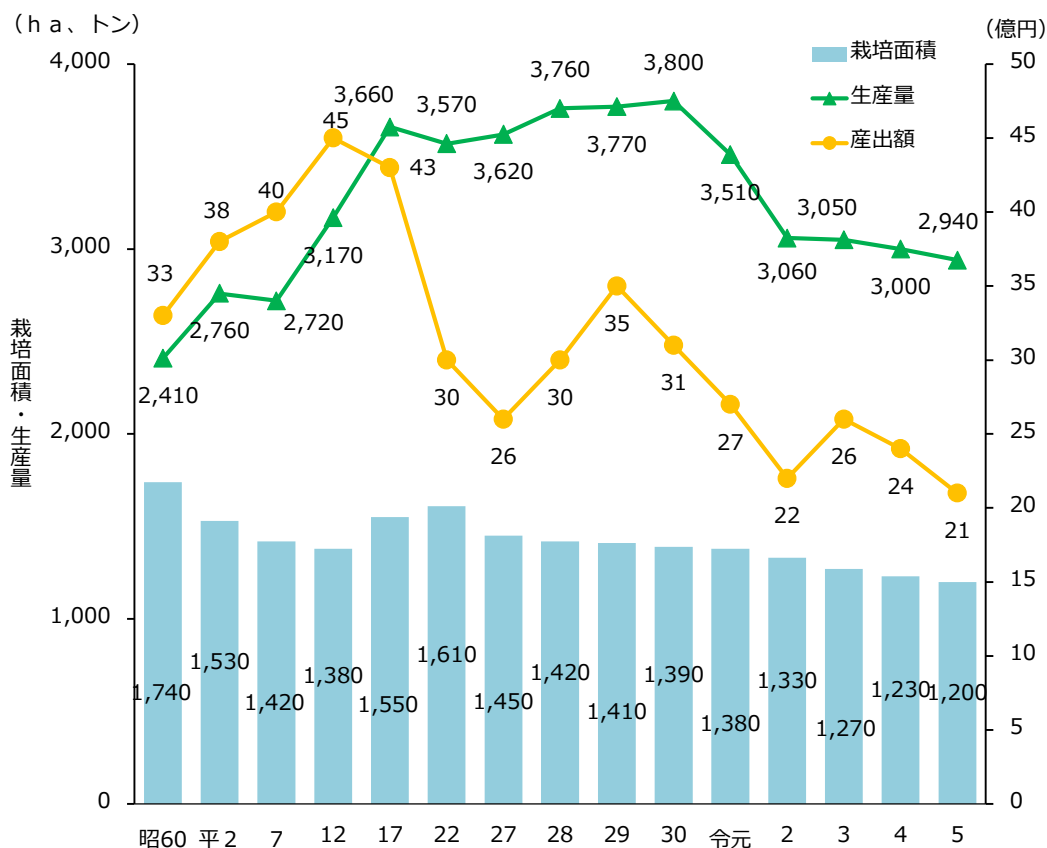


6-⑤. 主な品目の生産(工芸作物)

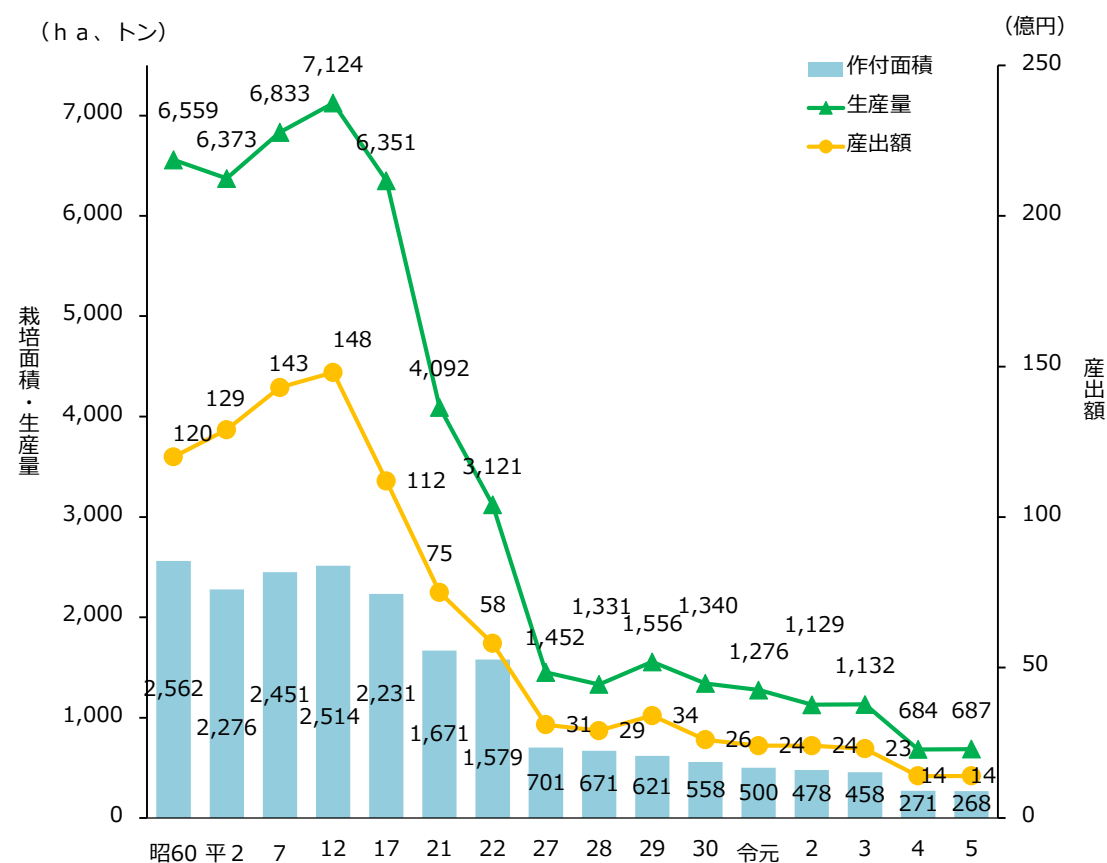
- 本県の茶は、平野部では煎茶、県北部の中山間地域では釜炒り茶を中心に産地が形成されており、令和5年の栽培面積は1,200ha、生産量は2,940トン、産出額は21億円です。
- 本県の葉たばこは土地利用型作物の基幹品目となっておりますが、平成24年の廃作奨励以後は面積、生産量ともに減少傾向で、令和5年の産出額は14億円となっています。



◆ 茶の栽培面積、生産量、産出額の推移



◆ 葉たばこの栽培面積、生産量、産出額の推移

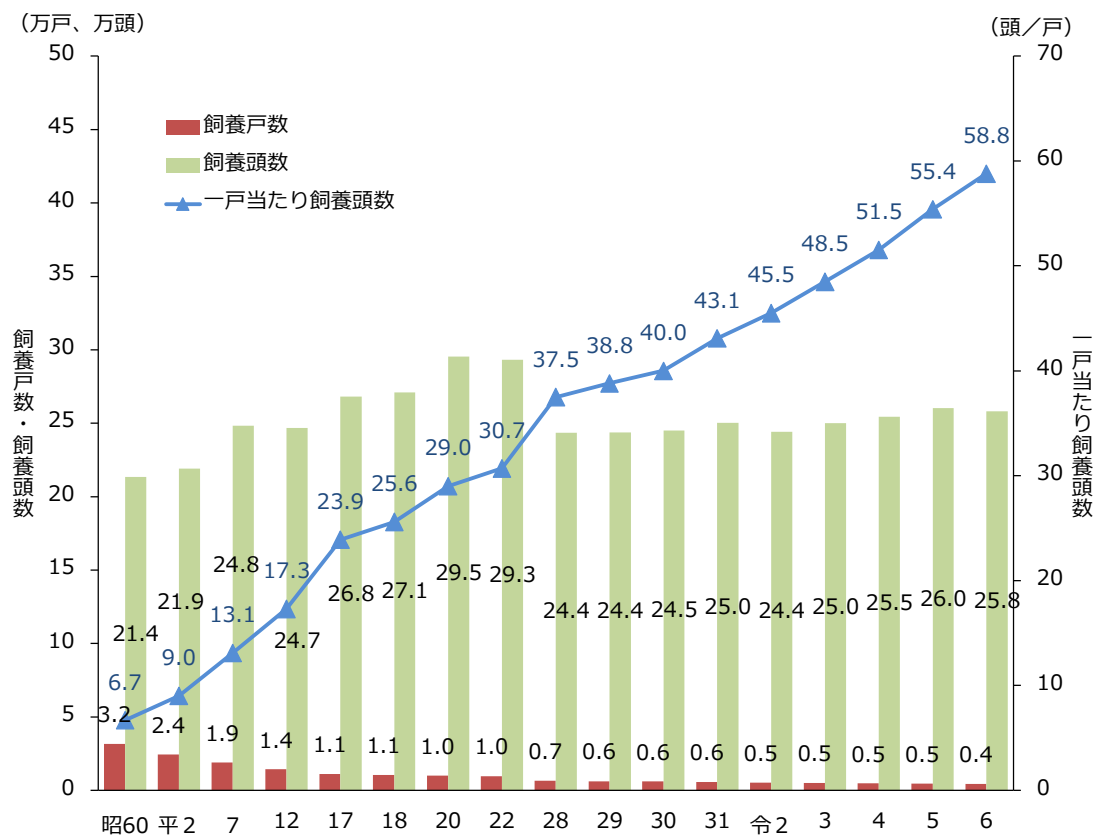


6-⑥. 主な品目の生産(肉用牛)

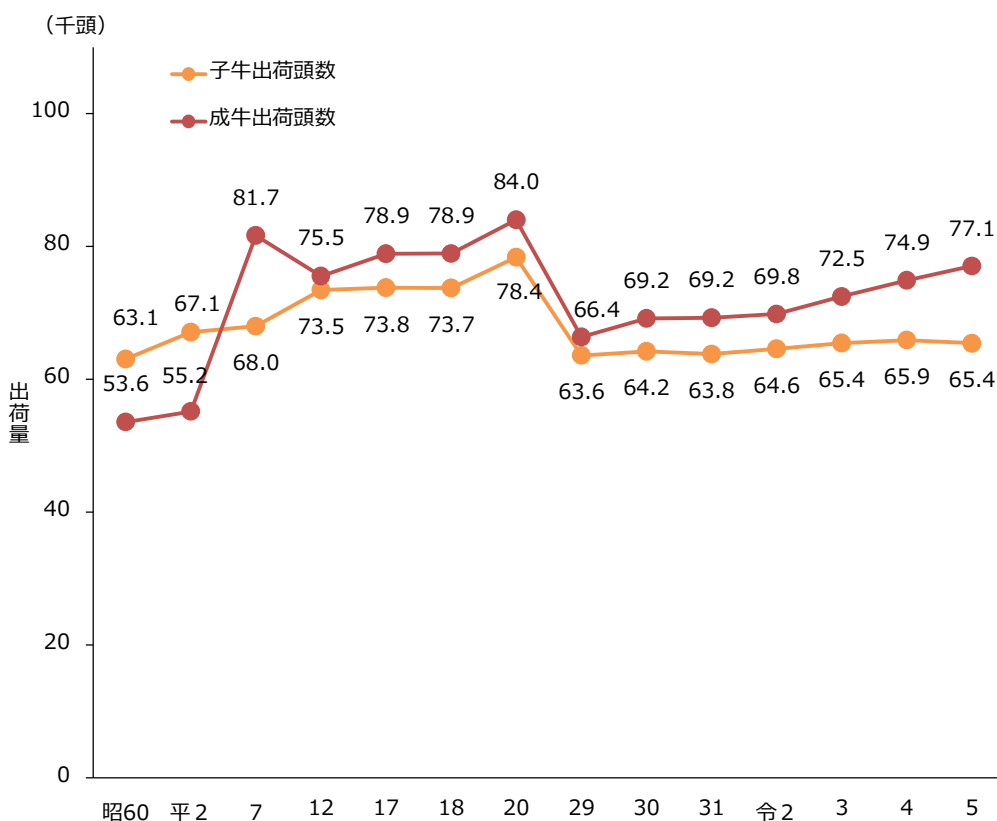
- 肉用牛の飼養頭数は、平成22年に発生した口蹄疫の影響等により、平成23年に減少したものの翌年には増加に転じ、令和6年2月1日現在で25万8,200頭（全国3位）、うち黒毛和種は22万8,700頭（全国2位）、繁殖雌牛は8万4,600頭（全国2位）となっています。
- 本県を代表するブランドの宮崎牛は、令和4年10月に鹿児島県で開催された「第12回全国和牛能力共進会」で、史上初となる4大会連続の内閣総理大臣賞を受賞しています。（第1回全共から第12回全共までで通算5回の受賞は全国最多）



◆ 飼養戸数・飼養頭数の推移



◆ 出荷頭数の推移



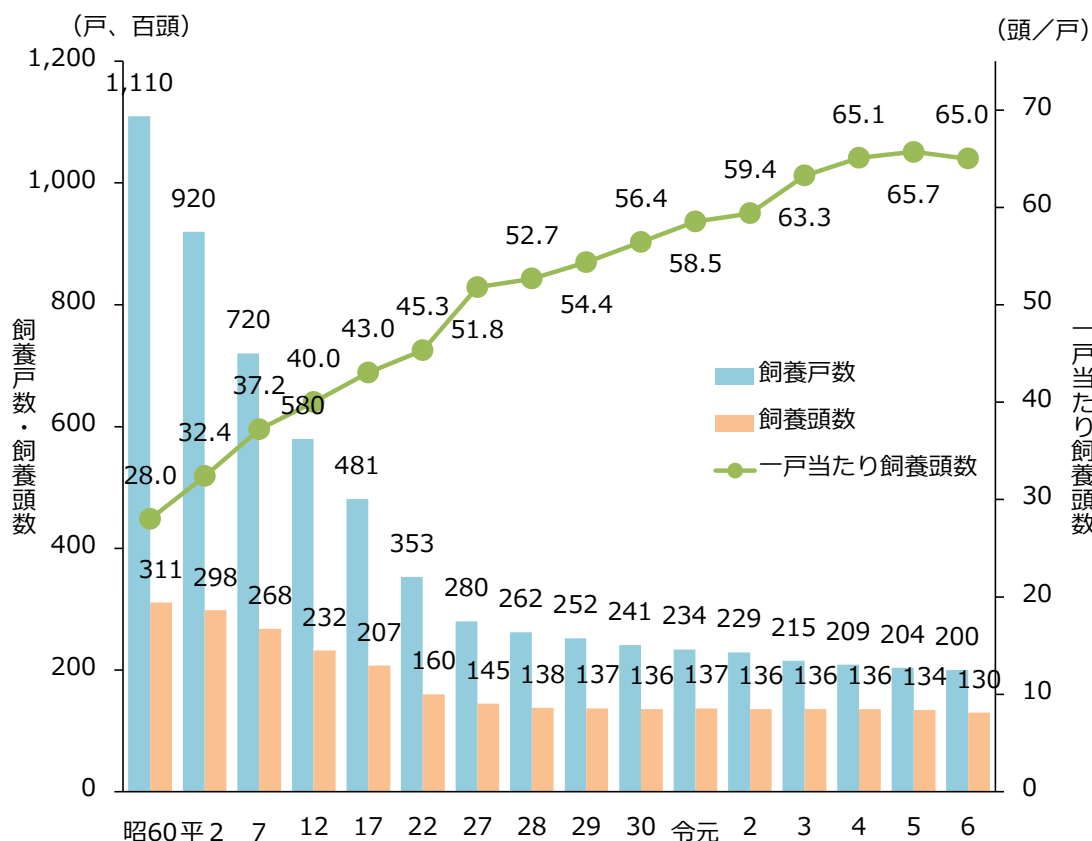
資料：農林水産省「畜産統計」「畜産物流通統計」

6-⑦. 主な品目の生産(酪農)

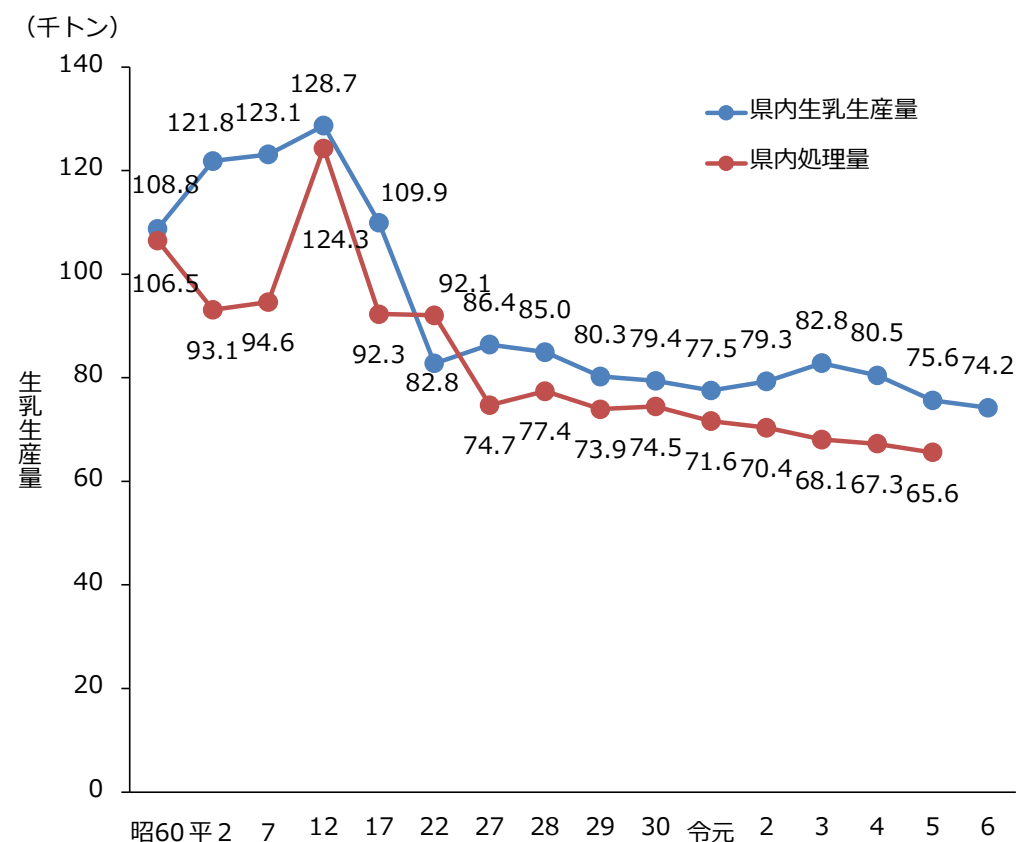
- 本県の酪農は、飼料費・資材費等の生産コストの上昇による経営悪化や酪農家の高齢化・担い手不足等により飼養戸数は減少傾向にあります。令和6年の1戸あたりの飼養頭数は65頭と横ばいで推移しています。
- 生乳生産量は、平成12年をピークに減少し、近年は横ばいで推移していましたが、令和6年は猛暑の影響により74,224tと前年比98.1%となりました。



◆ 飼養戸数・飼養頭数の推移



◆ 生乳生産量の推移

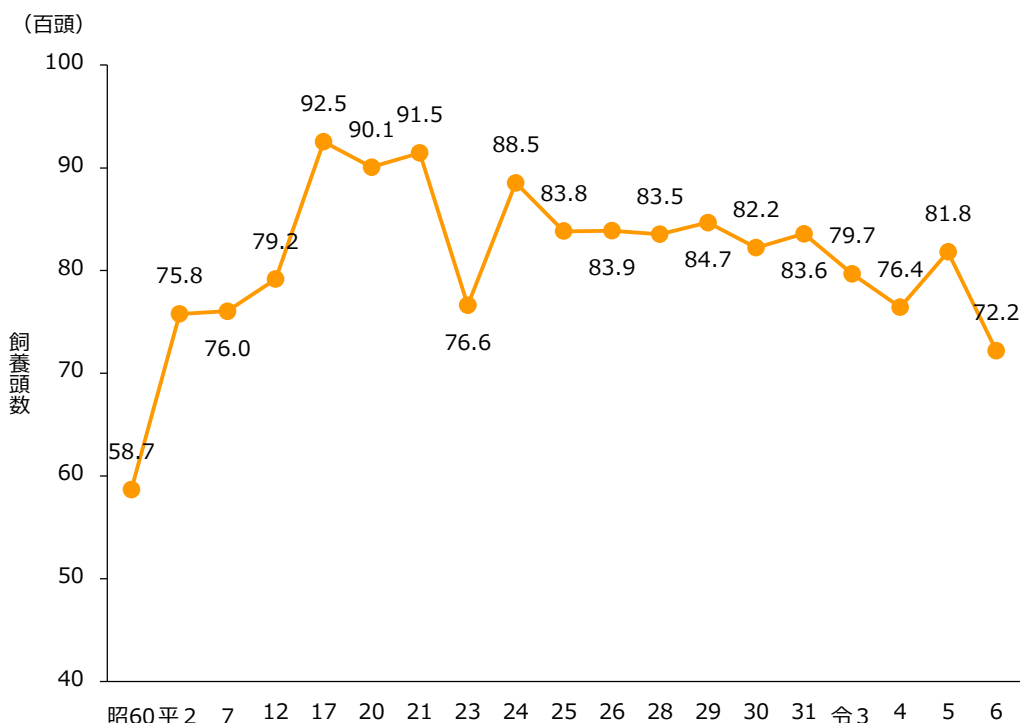


6-⑧. 主な品目の生産(豚)

- 豚の飼養頭数は、平成22年の口蹄疫の影響により平成23年は約76万頭まで落ち込み、その後回復したものの、令和6年は約72万頭（全国3位）となっています。
- 近年は農家戸数の減少傾向が続いており、令和6年の戸数は261戸となった一方、一戸当たりの規模拡大が進み、令和6年の一戸当たり飼養頭数は2,766頭となっています。
- 規模拡大に対応する生産体制の効率化として、地域内一貫生産体制やマルチサイト方式、オールイン・オールアウト方式の導入等に取り組む生産者が増えています。



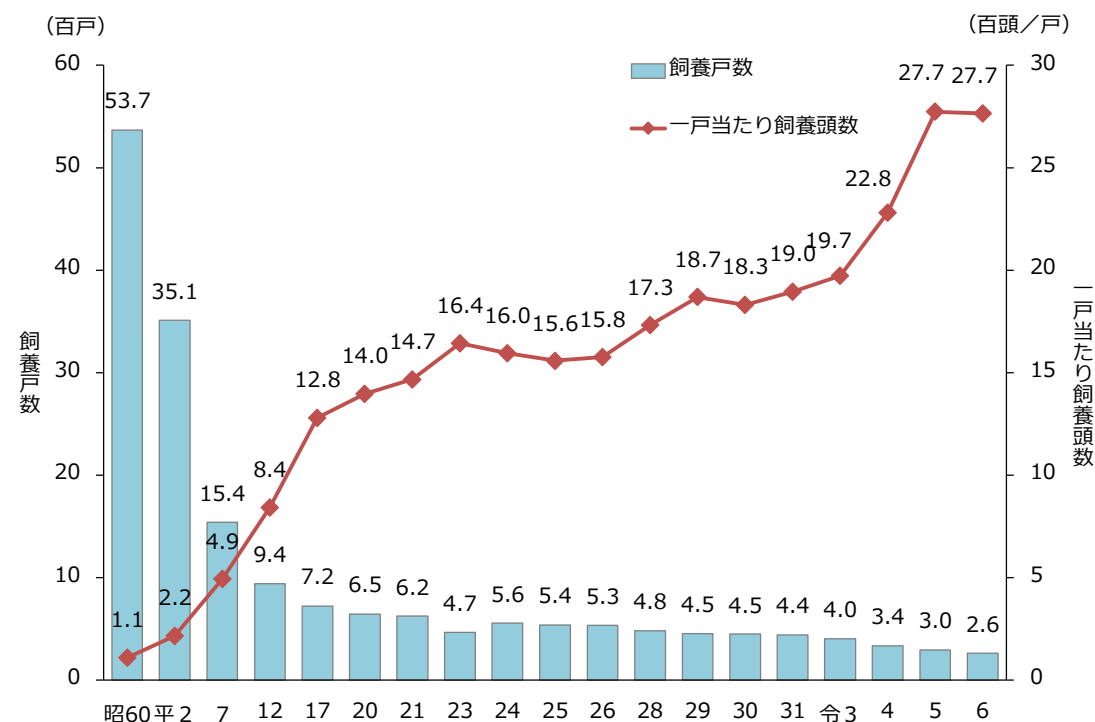
◆ 飼養頭数の推移



【用語解説】

- ・スリーサイト方式 : 飼育する農場を、繁殖、哺乳育成、肥育の3つに分散させる生産方式
- ・オールイン・オールアウト方式 : 子豚を一斉に豚舎に入れて飼養した後、一斉に出荷する生産方式

◆ 飼養戸数・飼養頭数の推移

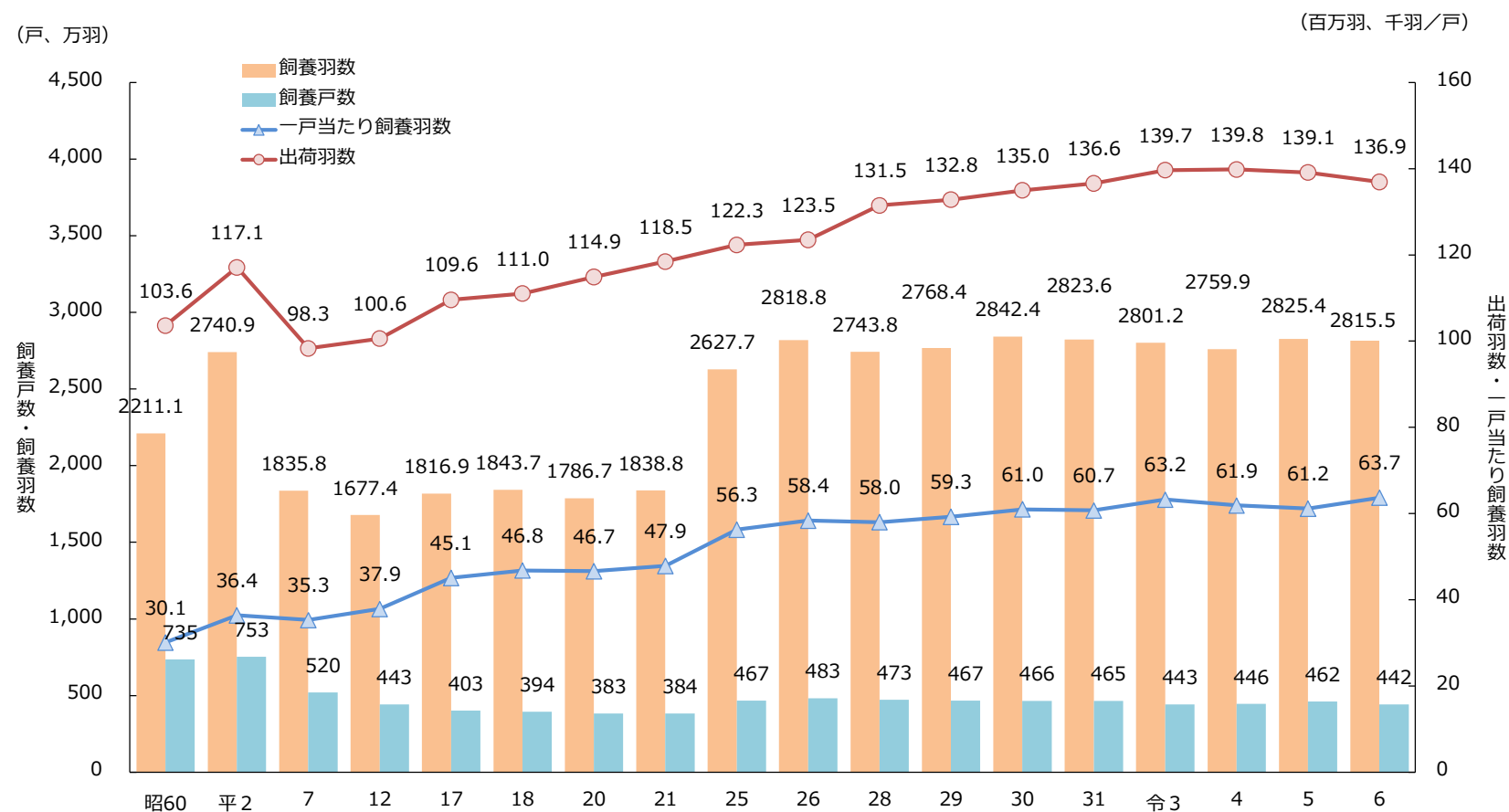


6-⑨. 主な品目の生産(ブロイラー)

- 本県のブロイラーは、生産・流通に関わる様々な部門を統合した大規模生産・流通システムであるインテグレーション化が進んでおり、令和6年の飼養羽数は約2,816万羽（全国2位）となっています。
- 令和6年のブロイラー出荷羽数は1億3,692万羽（全国2位）であり、宮崎、鹿児島、岩手の3県で全国の57.2%を占めています。



◆ 飼養戸数・飼養羽数出荷羽数等の推移



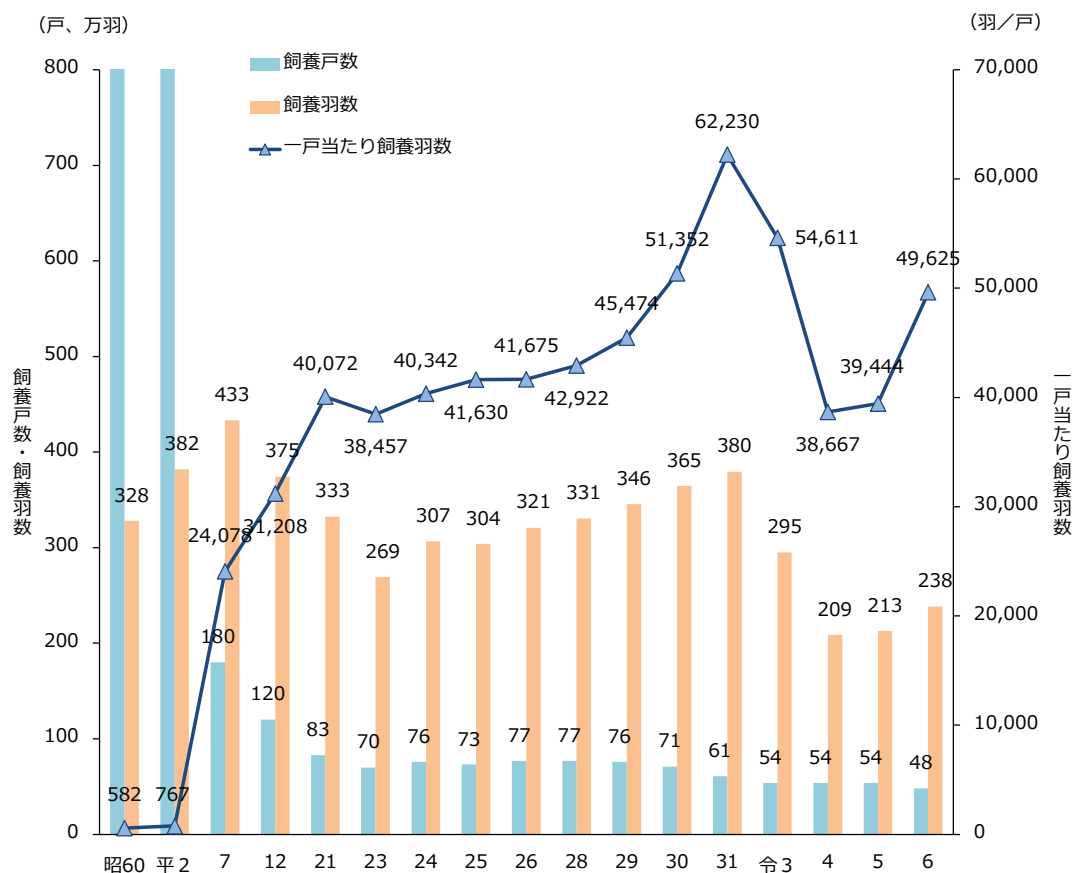
資料：農林水産省「畜産統計」

6-⑩. 主な品目の生産(採卵鶏)

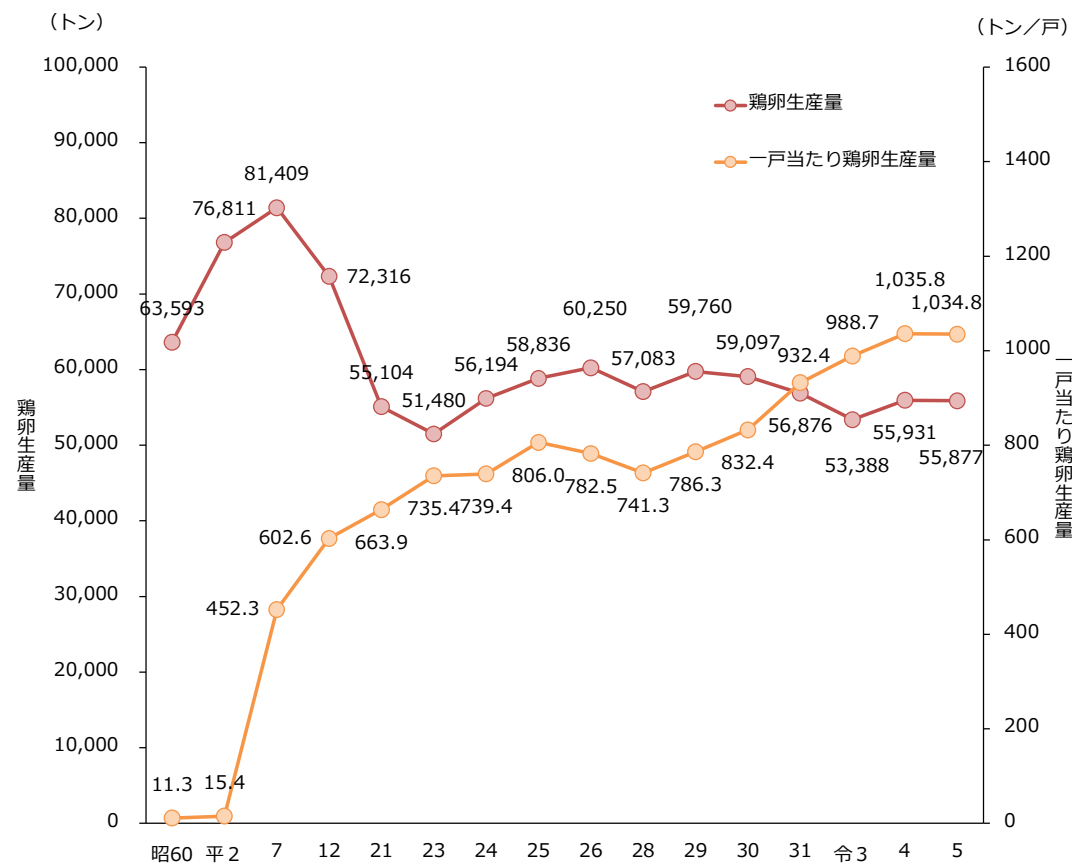
- 飼養戸数はほぼ横ばいですが、大規模な法人経営を中心に省力化に向けた施設整備が進められ、令和6年の一戸当たり飼養羽数は約5.0万羽です。
- 令和5年の鶏卵生産量は5万5,877トンとなっています。



◆ 飼養戸数・飼養羽数の推移

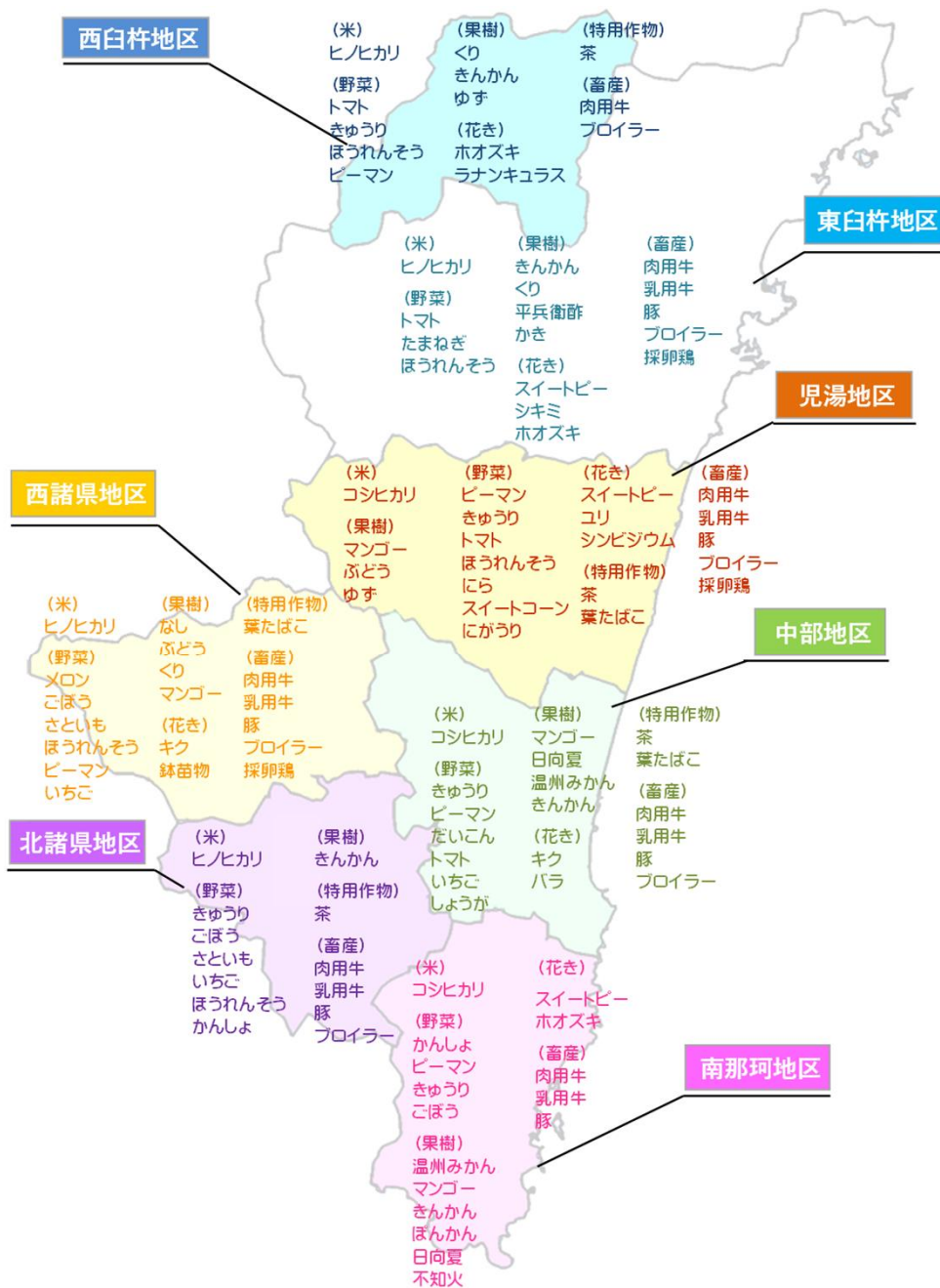


◆ 鶏卵生産量等の推移

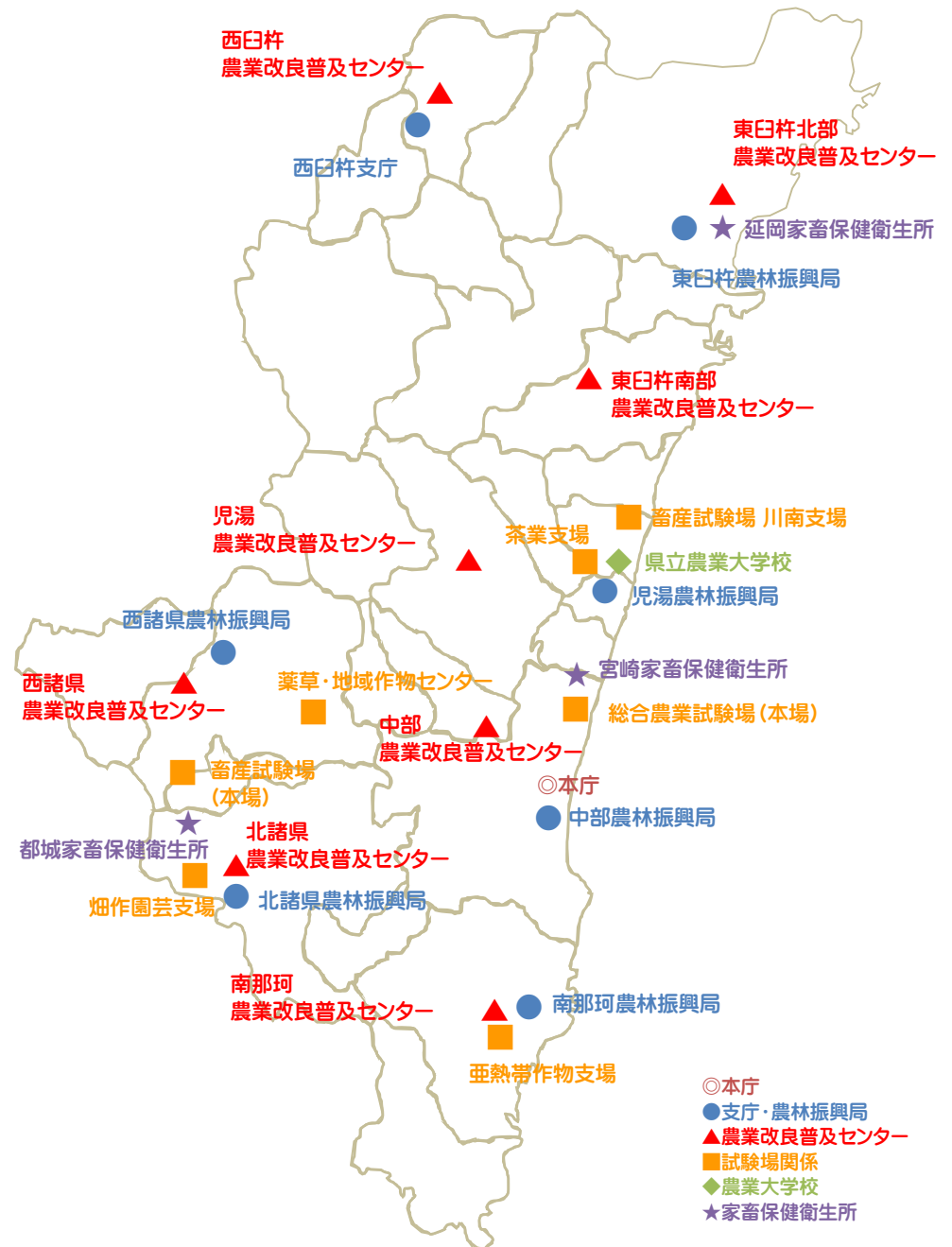


7. 地図でみる宮崎県の農畜産業

◆ 地域ごとの生産品目



◆ 県農政水産部の機関



◆ 宮崎の園芸



本県農業のうち、野菜、果樹、花きに関する情報をまとめた一冊です。

- ・品目毎の面積、生産規模
- ・振興方針
- ・関連する事業、交付金等
- ・県の育成品種

など

◆ 宮崎の畜産



本県農業のうち、畜産に関する情報をまとめた一冊です。

- ・みやざき畜産共創プラン
- ・畜種別飼養動向
- ・家畜衛生について
- ・県の試験研究

など

◆ 宮崎県水産業の動向と水産施策



本県水産業についてまとめた一冊です。

- ・海面・内水面の生産動向
- ・地域毎の特徴
- ・資源管理について
- ・関連施策

など

本県の農畜水産業に関する情報は、宮崎県ホームページまたは宮崎県農政水産部ホームページ「ひなたMAFiN」にて公開しています！

携帯電話やタブレットで下のQRコードを読み込むと、ご覧いただけます。

【宮崎県庁HP】



【ひなたMAFiN】

